

2010年日本における台湾史研究の回顧と展望： 日本の植民地期を中心に

岡本真希子*

摘要

本稿では、2010年中に日本において発表された台湾史に関する研究、とりわけ日本の植民地期（1895～1945年）に関する研究を対象として、研究動向の回顧と展望を行う。

本稿筆者は、2008・2009・2010年と足掛け三年にわたり、この「台湾史研究的回顧與展望」において、「日本における台湾史研究の回顧と展望—日本の植民地期を中心に—」という発表を担当する機会をいただいた。したがって、本稿では、各年度の個別研究紹介の羅列し「カタログ化」することを避けるためにも、この3年間の研究成果をまとめて振り返りながら、2010年の研究に言及することで、日本における台湾研究の傾向を抽出し、回顧と展望を行うこととしたい。

* 國立成功大學人文社會科學中心專案助理研究員

はじめに

本稿では、2010 年中に日本において発表された台湾史に関する研究、とりわけ日本の植民地期（1895～1945 年）に関する研究を対象として、研究動向の回顧と展望を行う。

2010 年の日本における台湾研究は、日治時代に関連するものだけでも、単著 19 冊、論文 189 本、資料集 7 シリーズが公刊された。¹

中央研究院臺灣史研究所臺灣史研究文獻類目編輯小組『臺灣史研究文獻類目 2010 年度』（中央研究院臺灣史研究所、2011 年 9 月。以下『文獻類目』と略す）によれば、2010 年に台湾・日本・韓国などで発表された「日治」時期に関する「専書與論文」は合計 320 本であるから、このうち日本で発表されたものだけでも約 65% を占めている²。

本稿筆者は、2008・2009・2010 年と足掛け三年にわたり、この「台湾史研究的回顧與展望」において、「日本における台湾史研究の回顧と展望—日本の植民地期を中心に—」という発表を担当する機会をいただいた。毎年管見の限りピックアップした研究成果は、2008 年は単著 13 冊・論文 106 本、2009 年には単著 14 冊・論文 125 本である。過去における調査の脱漏を考慮するならば、³ 2010 年の成果が突出して多いというわけではなく、例年なみ、もしくはやや多めの分量といえよう。

このような膨大な数の研究について、すべてについて論ずることは到底不可能である。また、「回顧與展望」における発表が、個別研究紹介の羅列し「カタログ化」することは、避けるべきであろう。したがって、本稿では、この 3 年間の研究成果をまとめて振り返りながら、2010 年の研究に言及することで、日本における台湾研究の傾向を抽出し、回顧と展望を行うこととしたい。

本稿末尾には、2008—2010 年の 3 年間に日本で発表された日治期台湾史の研究結果を一覧にして付した。⁴ 『文獻類目』の内容とももちろん重複するが、『文獻類目』は、台湾・日本など出版地により区別する方法ではなく、「政治」・「経済」・「文化」・などの研究項目別に記載されているため、「日本における」研究成果の

¹ 日本における「回顧と展望」や論文引用の慣習に従い、科研費の報告書や修士・博士論文は含まず、公刊されたもののみ対象とする。

² ただし、2010 年『文獻目録』収録の日治期文献には、本稿附表の日文献がすべて反映されているわけではない。そのため、2010 年の日治期文献数はさらに多いであろうこと、および日治期文献における日本で発表された成果の占める比率も更に増加することが予想される。

³ まだ調査に長けていなかった 2008・2009 年分は、調査に脱漏があることも考えられる。

⁴ 同リストは本稿筆者の作成によるもので、内容の全責任は本稿筆者にある。ただし、リストアップにあたっては、「新世代アジア史研究会」・「1930 年代台湾の大衆文化研究会」のメーリングリストなどを活用させていただいた。情報提供者の方々に記して感謝する。また、短い時間内に日本における文献収集を助けていただいた野口真広氏（早稲田大学社会科学部助教）、江永博氏（早稲田大学大学院文学研究科博士生）、台北における文献収集を助けていただいた阿部由里香氏（台湾大学法律学院博士生）に深く感謝する。

特徴はみえづらい。また、個別の年度単位で成果を見るのではなく、3年というある程度の中期的視点に立つことによって、研究成果や研究者の分布など、日本の台湾史研究における近年の研究動向を明らかにできるであろう。以上が、3年単位の成果表をつけた所以である。

なお、本表は、研究内容によって分別せずに、著者名により日本の50音順で配列した。1本の論文内容が複数の項目にわたることもあるためである。

以下、本稿では、『文献類目』および「回顧與展望會議」において採用される項目名も参照しながら、研究動向を紹介してゆく。その際には、単著を除き、論文に関しては、紙幅の関係から、論文名は後掲の一覧表に譲り、著者名および発表年のみを記してゆく。

一、単著

(一) 台湾人著書の翻訳・再版

2010年には、単著19冊が刊行されたが、このうち顕著な傾向は、台湾人研究者による台湾における著作の翻訳、もしくは、かつて出版された著書の復刻ないしは再版である。

たとえば、王泰升『日本統治時期台湾の法改革』、遠流台湾館編・呉密察監修『台湾史小事典』増補改訂版、呉文星『台湾の社会的リーダー階層と日本統治』などの日文翻訳版が出版された。

また、陳培豊『〈同化〉の同床異夢』新装版、涂照彦『台湾の経済』のように、日本語書籍として日本で出版された著書の再版もあった。

周知のように、これらの著書は台湾史研究において、法律・社会史・言語教育史・経済史および工具書として、必読書・必携書といえる成果である。日本において台湾史研究の工具類や教科書に類する書籍が圧倒的に不足しているなかで、こうした貴重な成果が日本語作品として手に入りやすくなることは、研究水準の底上げに多いに貢献するものであろう。

(二) 「帝国日本史」研究の蓄積

近年の日本人の著書では、複数の植民地を視野にいれた「帝国日本史」研究の成果が顕著といえよう。2008年の浅野豊美『帝国日本の植民地法制』・岡本真希子『植民地官僚の政治史』・西澤泰彦『日本植民地建築論』・山路勝彦『近代日本の植民地博覧会』、2009年松田利彦・やまだあつし編著『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』・堀和生『東アジア資本主義史論1』など、朝鮮・台湾・「満州」などを相互に視野にいれるなかで、台湾の分析がなされている。

2010年には松浦正孝『〈大東亜戦争〉はなぜ起きたのか：汎アジア主義の政治

『經濟史』が、1000 頁以上に及ぶ分量のなかに、台湾・朝鮮・大陸およびインドを視野に入れ、政治・経済史の手法を用いながら、「汎アジア主義における「台湾要因」(第6章)、「松井石根と大亜細亜協会」(第三部)などで台湾を検討し、「汎アジア主義」の様相を掘り下げており、当該期の台湾史研究においても必読の書といえよう。

また、三澤真美恵『〈帝国〉と〈祖国〉のはざま：植民地期台湾映画人の交渉と越境』は、台湾映画人の活動領域を台湾および上海・重慶にも広げて、近代東アジア史の中にその活動を跡付ける。そのなかで、「〈帝国〉と〈祖国〉のはざま」に生きた台湾人の「交渉と越境」の姿を捉え、植民地期に生きた台湾人の主体性を回復することに成功している。メディア史・社会史として優れた成果であるとともに、本稿筆者としては、「帝国史」の新たな方法も提示する成果として位置づけたい。なぜなら、一般的な「帝国史」は複数の植民地を俯瞰して「帝国日本」像を提示しようとするのに対して、三澤著書は個別の台湾人映画人の活動に着目し、植民地に生を受け複数の地域を移動した個人を分析することで、個人にとっての「帝国」の姿を浮かび上がらせているからである。

なお、遠藤正敬『近代日本の植民地統治における国籍と戸籍：満洲・朝鮮・台湾』もまた、「帝国史」的視野からの博士論文の成果である。複数の地域を対象としながら、政策史・制度史の手法により、「帝国日本」の国籍と戸籍の恣意的操作を批判しており、その点では一定程度成功している。しかし遠藤著書では、少なくとも台湾に関する章では、台湾における国籍関係の研究成果⁵を参照しておらず、また、「台湾人にとっての国籍・戸籍」という視点が抜けおり、台湾人はあくまで客体にとどめられている点で限界がある。国籍と戸籍が生み出す矛盾や、それと向き合う台湾人の主体的・戦略的な姿については、制度史・政策史以外の分野でも、たとえば、前掲の三澤著書や、経済史の分野では林満紅が、多重国籍を駆使する台湾人商人の経済活動と東アジア地域の経済変動を明らかにするなど、⁶ 客体に留まらない像を既に提示している。しかし、遠藤著書では、戦前期の政策主体(台湾総督府や外務省)に主眼が置かれるあまり、「台湾籍民」像は結果として当時の視点を踏襲してしまっている。

「帝国日本」史研究が、台湾を視野に入れることで、台湾史の研究領域が広がるのであれば喜ばしいことである。しかし、「帝国史」研究は、そもそもその出発点に、「一国史」的な「国民国家史」へのアンチテーゼとしての側面を持ち、「帝国日本」史も植民地を度外視してきた「日本近代史」を批判の対象としてきた。そして、さしあたり、「帝国日本」史の最近の研究の牽引者は、日本における日本人研究者といえる。こうした経緯や現状においては、「帝国日本史」は、たとえ「帝

⁵ たとえば、王學新編譯『日據時期籍民與南進史料彙編與研究』(國史館臺灣文獻館, 2008年)などの、王學新による一連の著作。

⁶ 林満紅「華商と多重国籍：商業的リスクの軽減手段として(1985-1935)」、『アジア太平洋討究』3号・2001年)・林満紅2008年論文など。

国日本」を批判的に検証する場合でも、植民地統治を受けた人々が不在になりがちな危険をはらむ。自戒も含めてだが、こうした点は、今後も十分に留意されるべきであろう。

二、論文

(一) 経済史

経済史研究においては、3つの傾向をとりあげたい。

第一には、「東アジア資本主義」を掲げる堀和生の研究である。堀は、経済史分野における「帝国史」的視点から提言と実証を続けている代表的研究者である。「東アジア資本主義」とは、「20世紀前半に日本を中心とした東アジアが、1つの主権によって統合された市場関係に基づく資本主義として発展してきたとの認識のもと」に、「日本資本主義」ではなく、「東アジア資本主義」という概念規定を提起し、「日本および各植民地は」「帝国として一体的に資本主義を形成していたこと」明らかにしようとするものである（堀 2010年 27頁）。その意図するところは、従来の日本の植民地研究における経済史が一国史的経済史の枠組みにあったことへの批判、および杉原薫「東アジア間貿易論」への批判である。2008年堀編著書のほか、2010年には社会経済史学会大会（第78回大会）において、「東アジアにおける資本主義の形成－帝国に依存した経済発展」と題したパネルを組み、その総論を執筆した（堀 2010年）。ただし、この2つの企画では、それぞれ総論を堀論文が担当し、さらにほかの研究者の手になる台湾・朝鮮などの各植民地の諸論考が展開されるという相互関係から成り立っており（2008年の堀内・河原林・やまだ論文など）、いわば「東アジア資本主義論」内における総論・各論の分業体制的な構造となっている。

第二には、台湾拓殖株式会社（以下、台拓）に関する研究の進展である。湊照宏・谷ヶ城秀吉・斎藤直ら若手研究者による共同研究により、一次資料となる国史館台湾文献館の台拓檔案を利用した新たな研究動向といえる。国策会社といえば政府の保護をア prioriに見なしてきた通説に異を唱え、社債発行や社有地経営などの動向分析により、資本市場との相関関係を明らかにした。2007年の第43回経営史学会全国大会「国策会社の経営史－台湾拓殖における国策性と営利性」、2009年日本植民地研究会大会「戦時経済の展開と資本市場：日本植民地・勢力圏における国策会社との関連から」などの成果として、久保文克（2008年）・谷ヶ城秀吉（2010年6月）・斎藤直（2008・09・10年）がある。また、林玉茹（2009・10年）は、従来は官営日本人農業移民との関係から分析されてきた東台湾移民事業に対し、戦時下の台拓による「本島人移民」事業と東台湾の「内地化政策」を新たに明らかにした。なお、同論文は台湾における既発表中文論文の翻訳であり、

經濟史においても、台湾の優れた研究の日本への紹介という傾向が指摘できる。

第三には、流通史を取り入れた、平井健介の2010年の一連の論文である。とりわけ、2010年の社会経済史学会大会（第78回大会）において「情報・信頼・市場の質」と題したパネルにおける肥料市場に関する論考（平井2010年11月）、および肥料市場に果たす農会に関する論考（平井2010年6月）では、生産性の向上と肥料需要に直面した農民が、肥料市場において選択的に行動する姿を浮かびあがらせている。従来の米穀業史研究では、1920年代以降の蓬莱米導入以後を分析対象としたきたのに対し、平井は蓬莱米導入以前からの肥料事業・取引過程に着目し、台湾人農民や台湾人肥料商人の動向を明らかにするとともに、流通過程に結びつけて論じており、社会史などの観点から見ても興味深い成果といえる。

（二）政治史

まず、政治運動史に関しては、岡本真希子が、日本人による六三法撤廃運動や、「台湾同化会」事件をめぐる政治過程を分析した（岡本2010年2・11月）。岡本論文では、従来からの本国—台湾を架橋する「帝国史」的枠組みとともに、台湾在住者内部における民族間および官・民における利害の差異・調整の政治過程を明らかにし、台湾をめぐる／における重層的な政治構造を明らかにしようとしたものである。また、岡本は植民地期の政治史をめぐる視角についても論じている（岡本2010年1月）。この論考は、『思想』の「韓国併合」100年を問う」特集号に掲載されたものだが、2010年の日本の歴史学界が相次いで「韓国併合」を特集した雑誌・書籍を刊行するなかで、⁷ 植民地問題から台湾問題がこぼれ落ちていること、および台湾と朝鮮にそれぞれ固有の文脈を理解することの重要性を訴えた（つもりである）。

紀旭峰の研究では、台湾人の内地留学生を課題に、政治・社会運動史や教育史など、幅広い領域に貢献可能な成果を継続して発表している。紀の諸論考では、『亜細亜公論』・『大東亜公論』などの新たな資料発掘を伴いながら、東京における朝鮮人・中国人留学生、日本人知識人のとの関わりなどを交えて丹念に掘り下げており、東京を結節点とした東アジア史を展開している（紀旭峰2008・2009・2010年論文）。

研究の蓄積が顕著な領域としては、植民地官僚に関する研究がある。制度・人事などを主に分析した岡本2008年著書、個々の官僚の政策構想などを分析した松田利彦・やまだあつし2009年編著書などのまとまった成果が出された。なお、3年間で5本の研究成果を発表している王鉄軍の研究が目を引く。しかし、例えば

⁷ 管見の限りでも、『思想』1029号（岩波書店、2010年1月）の「韓国併合」100年を問う」専号、同特集とシンポジウムの成果を発表した国立歴史民族博物館編『韓国併合」100年を問う』2巻（岩波書店、2011年3月）、『歴史学研究』第867・868号（歴史学研究会、2010年6・7月）の「特集 「韓国併合」100年と日本の歴史学（1）・（2）」、歴史学研究会2010年大会・全大会テーマ「いま植民地支配を問う」（『歴史学研究』866号、2010年5月）、など。

王鉄軍 2010 年論文は 200 頁にも及び、「台湾総督府公文類纂」を駆使した大作ではあるが、先行研究との関係がほとんど記されないまま、本論が膨大な資料の紹介とともに展開されてしまっており、研究史上の位置づけが非常に困難である。例えば、同論文に関わる先行研究としては、本稿筆者は 2008 年著書において、台湾総督府官僚の任用制度・俸給制度・文官服制などの各 1 章を割いて分析し、本国の制度の移植と植民地固有の制度の両側面から検討した。2010 年王鉄軍論文でもこうしたテーマを盛り込んでいるのだが、拙著には全く触れていない。このほか、テーマが重複する台湾領有初期の台湾総督府官制などに関する檜山幸雄の一連の研究についても、同じく総督府文書を用いながらも、先行研究にあげていない。研究の相互の発展のためにも、各論文では本文開始の前に、ほかの研究と自身の研究の位置づけを整理し明記することを期待したい。

政策史分析においては、女性史にも関わる優れた成果として、張曉旻の業績がある（張曉旻 2008・2009・2010 年）。台湾領有初期における公娼制導入過程・確立過程を明らかにする過程では、明治期の難解な「台湾総督府公文類纂」を用いながら、地方レベルの訓令までも丹念に調査し、かつ、本国（内地）の新聞の論調なども渉猟し、本国・台湾総督府・地方行政など多方面に目配りをしている。日本の植民地研究においては、植民地と〈性〉問題は、1990 年代以降に「従軍慰安婦」問題が非常に重要な研究課題となってきた（吉見義明 2009 年）。こうしたなかで、台湾に関しては、主に日中戦争期に関して国史館台湾文献館の台拓檔案を駆使した朱徳蘭の研究が代表的なものとして知られる（朱徳蘭 2009 年）。近年の張曉旻の研究では、さらに「帝国日本」最初の植民地である台湾における公娼制導入過程を明らかにしており、植民地と〈性〉問題の初発形態のみならず、在台植民者社会の問題を抉り出すことに成功している。

（三）教育史

政策史に関わるものとしては、植民地期の教科書に関する成果が多い。陳虹彪は台湾人向けの教材や教科書の編修官を丹念に分析し、教育政策史として読み応えがある（陳虹彪 2008・2009・2010 年）。

このほか、教材発行年譜や個別の教材の資料紹介といった、ツールの成果としては、白柳弘幸（白柳 2009・2010 年）・酒井恵美子（2008・2010 年）・菅野和郎（2008 年）・伊藤龍平（2009・2010 年）などがある。これらの研究は、教科書の教材や編纂過程などから、教育政策側の意図を検証している。このほか、「帝国史」研究の視野からの教育政策として、「国民学校令」の植民地適用について分析した林琪禎（2009 年）がある。

政策側の意図を分析するだけでなく、教育の受け手にとっての教育の意味を問う成果を発表し続けているものとして、「台湾先住民教育」（原住民教育のこと）の分野における北村嘉恵の研究がある。不就学者や、卒業生への当局の監視問題

などを視野にいれるなかで、受け手と政策側の齟齬、政策の言説に回収されない教育史を明らかにしている（2008 年著書・2010 年論文）。また、教育の現場に視座を据え、「現場教師」たちの実践に着目しながら、1930 年前半の台湾における郷土教育運動を分析した許佩賢の論考がある（許佩賢 2008 年）。いずれも統治者の意図からずれる／はみ出る存在に着目しながら、複雑な植民地教育の様相を明らかにした成果である。

（四）文学

台湾文学に関わる成果は非常に多い。個々の文学作品の分析、とりわけ日本語作品の分析が多く発表されたが、ここでは、台湾の文化状況を示した、大きな枠組みを提示した研究のみを挙げておく。

まず、黄美娥の論文では、新聞の「台湾漢文文言小説」や世界文学の受容・翻訳・摸作などを通して、台湾における文学のモダニティの移植と伝搬、日本文学の越境と翻訳・転位などを論じた（黄美娥 2008・2010 年）。

また、陳培豊の論文では、漢文の「同文」性に着目して「帝国漢文・植民地漢文」という新たな概念を提起しながら、それらと「中国白話文」の重層性と共存を明らかにし、あるいは、「演歌」という「音」資料に着目し、音声に満ちた台湾社会を再現しつつ、重層的な植民地台湾の文化状況を明らかにした（2010 年 2・7 月）。

これらの論文は、いずれも従来着目されてこなかったテキストを読み解き、台湾固有のクレオール的文化状況を明らかにしたものであり、非常に重要な成果である。

これらの論考の主な発表媒体は、『越境するテキスト』（2008 年）・『帝国主義と文学』（2010 年）など、シンポジウムを経たのちの成果論集として翻訳・公刊されたものである。台湾における第一級の台湾文学研究の成果が、このような形で日本で公刊する努力がなされていることは、日本における台湾文学研究に多大な貢献をもたらすものといえよう。

（五）原住民

2010 年の原住民研究においては、霧社事件に関して、2009 年の日本台湾学会大会企画シンポジウム「台湾原住民族にとっての霧社事件」が開催され、その成果として 2010 年に『日本台湾学会報』代 12 号に特集が組まれた（駒込 2010 年。タクン・ワリス 2010 年。呉密察 2010 年。北村 2010 年。春山 2010 年。下村 2010 年。ダッキス・パワン 2010 年。タクン・ワリス 2010 年）。

駒込武の趣旨説明文によると、「ディシプリンを異にする人びとが一同に会して議論できる場」のとの判断からシンポジウム形式をとり、その趣旨は「いわば霧社の「内側」から表れてきた多様な声と対峙」しながら、「霧社事件をめぐる歴

史叙述において排除してきたのはどのような事実・人びとなのか」、そして「そうした問題を自覚し乗り越えていくために手がかりはどこにあるのか、というようなことを考えようとする事」である（駒込 2010 年）。

論点は多岐にわたるため省略せざるを得ない。しかし、研究史という観点からいえば、日本と台湾における霧社事件研究の状況をリアルタイムで熟知する呉密察による「霧社事件研究の課題」（呉密察 2010 年）は、霧社事件研究の「回顧と展望」とでもいうべき必読論考であるといえよう。

（六）その他

女性史において、『台湾女性史入門』（2008 年）・『台湾女性研究の挑戦』、坪田＝中西美貴による原住民女性の主体性を汲み取ろうとする論考（2008 年 2・11 月、2009 年）、植民地の台湾人女性にとってのモダニティを考察する洪郁如の論考（2008 年・2010 年）などの多様な成果が継続的に現れているほか、政治史の項目で前述した張曉旻の一連の台湾領有初期における公娼制に関する論考が重要な成果といえる。

また、建築関係において、日本統治時代の建築物に関する研究（西澤 2008 年・足立 2008・2009 年）、建築関係の官僚の構想や活動に関する研究（岡部剛ほか 2010 年・呉イクエほか 2009 年）、昭和町・青田街などの日本人官舎に関する研究（Kuo Yawen ほか 2008・2009・2010 年）、台北などの都市計画に関する研究（五島寧 2009・2010 年）など、建築関係の専門メディアにおいて、継続して研究成果が蓄積されている。

また、沖縄（とりわけ八重山地方）と台湾に関する人の移動に関する研究も、「帝国日本」内における「移動」・「越境」などの観点から、在台湾沖縄人社会（松田ヒロ子 2008 年）、八重山から台湾への女性労働（金子幸子 2008・2009・2010 年）、石垣島への台湾人移民（水田憲志 2010 年 2・3 月）などがある。

おわりに：若干の展望

以上、本稿では、この 3 年間の研究成果をまとめて振り返りながら、2010 年の研究にも言及することで、日本における台湾史研究の傾向を抽出した。近年、顕著な傾向としては、台湾における台湾史研究のキャノンの作品や最新の研究成果が、日本語に翻訳されて日本の研究シーンに入り、日本の台湾史研究の底上げと牽引力となってきているということである。

このことと関連して、最後に、個人的な感想めいたことを若干述べて、「展望」に変えたい。私自身が台湾に研究の足場を移して 3 年弱を経過し、台湾の雑誌にも投稿などをするなかで、また、日本の台湾史研究を 3 年分回顧するなかで、問

題と思われた点についてである。

第一は、日本と台湾とでは、先行研究の範囲や引用ルールが、かなり異なるのではないかということである。台湾では碩士論文（日本では修士論文）は参照必須文献である。私が台湾で投稿した際の査読でも、参照すべきと指摘を受けた文献のひとつは、提出後1年以内でまだインターネット上では公開しておらず、図書館で原本公開のみされている、出来立ての碩士論文であった。しかし、日本では修士論文は公開前提ではなく、引用する習慣はない。また、場合によっては引用はルール違反になりかねない。

一方で、現在の台湾における研究の生産スピードは目を見張るものがある。かつて、台湾において台湾研究がタブーであった時代には、日本において日本語によって台湾史の優れた研究成果が発表されていた時代であったため、日本における台湾史研究はそうした環境に、いわば「寄りかかる」ことも可能であった（自己批判も含めての感想である）。しかし、時代はすでに異なり、台湾では、すでに台湾文学や台湾史を専門領域とする学部や大学院がいくつも設立されている。日本を経由する必要なしに、台湾で中文によってダイレクトに続々と、碩士論文を含む研究成果が発表されている。いわば台湾史研究の「発信地」の磁場が大きく変動した今日、日本における台湾史研究も、中文で次々と出されるこれらの成果とは、真摯に向き合う必要があるだろう。

また、資料面においては、日本統治期に限っていえば、『台湾日日新報』・『台湾総督府公文類纂』や刊行物などの日本語文献は、依然として重要な地を占めており、それらのデジタル検索が可能になったことは、確かに研究の進展を促すものとなっている。しかし他方で、日本語資料にダイレクトにコンタクトできることは、資料の羅列で事足りるような研究成果を生み出すような風潮を助長しているように思う。本稿ではあえて名前はあげないが、この3年間の研究成果のなかには、日治期の日本語資料を資料批判なしに羅列し、総督府の論調そのままに、結論を導き出している論文が、年配の研究者ではなく、若い研究者の成果のなかに散見された。

統治者の視点よりの資料が量的に圧倒的な植民地期の研究において、資料批判は最も基本的な作業のはずである。資料公開が、むしろ植民地期の歴史観の亡霊を呼び覚ますという皮肉な状況に陥らないよう、研究者は緊張感を持って資料に臨みたいものである。

台湾における台湾史研究と向き合いながら、日本における台湾研究には、どのような道が展望できるのか。少なくとも現状においては、相互に交流を推進するなかで、道を模索してゆくしかないであろう。

2008-2010 年之間在日本台湾史研究一覽（日文 50 音排序）

①単著（著者日文発音 50 音順）

著者	書名	出版社	年・月
浅野和生	《台湾の歴史と日台関係：古代から馬英九政権まで》	早稲田出版	2010.12
浅野豊美	《帝国日本の植民地法制：法域統合と帝国秩序》	名古屋大学出版会	2008.2
伊藤真実子	《明治日本と万国博覧会》	吉川弘文館	2008.6
遠藤正敬	《近代日本の植民地統治における国籍と戸籍：満洲・朝鮮・台湾》	明石書店	2010.3
遠流台湾館編・呉密察監修 〔横澤泰夫編訳〕	《台湾史小事典》増補改訂版	中国書店	2010.8
王泰升〔宮畑加奈子、後藤武秀訳〕	《日本統治時期台湾の法改革》	東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター	2010.2
太田健一	《野崎台湾塩行の研究：近代日本塩業・台湾塩業》上、下	ナイカイ塩業	2010.7
岡本真希子	《植民地官僚の政治史：朝鮮・台湾総督府と帝国日本》	三元社	2008.2
小田滋	《堀内・小田家三代百年の台湾：台湾の医事・衛生を軸として》	近代文藝社	2010.10
春日豊	《帝国日本と財閥商社：恐慌・戦争下の三井物産》	名古屋大学出版会	2010.2
加藤聖文	《〈大日本帝国〉崩壊：東アジアの1945年》	中央公論新社	2009.7
河原功	《翻弄された台湾文学：検閲と抵抗の系譜》	研文出版	2009.6
北村嘉恵	《日本植民地下の台湾先住民教育史》	北海道大学出版会	2008.4
許世楷	《日本統治下の台湾：抵抗と弾圧》	東京大学出版会	2008.5
紅野謙介	《検閲と文学：1920年代の攻防》	河出書房新社	2009.1
後藤武秀	《台湾法の歴史と思想》	法律文化社	2009.9
呉文星〔所澤潤訳〕	《台湾の社会的リーダー階層と日本統治》	財団法人交流協会	2010.3
胎中千鶴	《葬儀の植民地社会史：帝国日本と台湾の〈近代〉》	風響社	2008.2
台湾女性史入門編纂委員会	《台湾女性史入門》	人文書院	2008.1
ダニエル・V・ボツマン 〔小林朋則訳〕	《血塗られた慈悲、答打つ帝国：江戸から明治へ、刑罰はいかに権力を変えたのか？》	合同出版	2009.1
張季琳	《台湾における下村湖人：文教官僚から作家へ》	東方書店	2009.3

陳培豐	《〈同化〉の同床異夢：日本統治下台湾の国語教育史再考》新装版	三元社	2010.8
寺田善朗	《旧植民地における日系新宗教の受容：台湾生長の家のモノグラフ》	ハーベスト社	2009.2
涂照彦	《台湾の経済》涂照彦論稿集、第2巻		2010.3
中村勝	《捕囚—植民国家台湾における主体的自然と社会的権力に関する歴史人類学》	ハーベスト社	2009.12
西川潤、蕭新煌編	《東アジア新時代の日本と台湾》	明石書店	2010.2
西澤泰彦	《日本植民地建築論》	名古屋大学出版会	2008.2
西英昭	《〈臺灣私法〉の成立過程：テキストの層位学的分析を中心に》	九州大学出版会	2009.1
日本植民地研究会編	《日本植民地研究の現状と課題》	アテネ社	2008.6
野村鮎子・成田静香編	《台湾女性研究の挑戦》	人文書院	2010.4
秦郁彦	《靖国神社の祭神たち》	新潮社	
春山明哲	《近代日本と台湾：霧社事件・植民地統治政策の研究》	藤原書店	2008.6
堀和生	《東アジア資本主義史論 形成・構造・展開 1》	ミネルヴァ書房	2009.9
松田利彦、やまだあつし編著	《日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚》	思文閣出版	2010
松田良孝	《台湾疎開：〈琉球難民〉の1年11ヵ月》	南山舎	2010.6
松永正義	《台湾を考えるむずかしさ》	研文出版	2008.8
三澤真美恵	《〈帝国〉と〈祖国〉のはざま：植民地期台湾映画人の交渉と越境》	岩波書店	2010.8
宮崎聖子	《植民地期台湾における青年団と地域の変容》	お茶の水書房	2008.3
松浦正孝	《〈大東亜戦争〉はなぜ起きたのか：汎アジア主義の政治経済史》	名古屋大学出版会	2010.2
丸川哲史	《台湾ナショナリズム：東アジア近代のアポリア》	講談社	2010.5
明治大学史資料センター／監修 山泉進／編 村上博／編	《布施辰治研究》	日本経済評論社	2010.12
山路勝彦	《近代日本の植民地博覧会》	風響社	2008.1
林初梅	《〈郷土〉としての台湾：郷土教育の展開にみるアイデンティティの変容》	東信堂	2009.2
若林正文	《台湾の政治：中華民国台湾化の戦後史》	東京大学出版会	2008.6
渡辺利夫、朝元照雄編	《台湾経済読本》	勁草書房	2010.2

②論文（著者日文発音 50 音順）			
著者	論文名	掲載誌・論文集	年・月
藍谷邦雄	〈時評 〈慰安婦〉裁判の経過と結果およびその後の動向〉	《歴史学研究》No.849、歴史学研究会	2009.1
味岡義人	〈台湾膠彩画の誕生〉	《民族芸術》25号、民族芸術学会・民族芸術学会編	2009
秋葉和温	〈鶏のロイコチトゾーン症と小倉喜佐次郎獣医学博士との関係、そして知り得た日本統治下の台湾の獣医畜産事情〉(1)～(7)	《畜産の研究》62巻第6号～12号、養賢堂(2009年7月号時点でも(13)まで掲載継続)	2008.6～12
秋山郁子	〈別格官幣社・靖国神社の合記者詮衡(上)〉	《季刊 戦争責任研究》67号、日本の戦争責任資料センター	2010.3
秋山郁子	〈別格官幣社・靖国神社の合記者詮衡(下)〉	《季刊 戦争責任研究》68号、日本の戦争責任資料センター	2010.6
足立崇	日本統治時代における台湾建築史研究に関する研究 1：1929～1945年	《日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系》(48)、社団法人日本建築学会	2008.5
足立崇	〈日本統治時代における台湾建築史研究〉	《民族芸術》25号、民族芸術学会・民族芸術学会編	2009
阿部純一郎	〈戦時下台湾における三つの〈地方文化〉構想：《民俗台湾》と日本民芸協会の民芸保存活動を事例として〉	《ソシオロジ》54巻2号、通号166号、社会学研究会・ソシオロジ編集委員会編	2009.1
阿部賢介	〈第二次世界大戦前後の台湾人〉	《現代台湾研究》37号、台湾史研究会	2010.3
荒武達朗	〈内地農民と台湾東部移民村：《台湾総督府文書》の分析を中心に〉	《徳島大学総合科学部人間社会文化研究》18号、徳島大学総合科学部	2010
蘭信三	〈序：日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学をめざして〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》、不二出版	2008.6
飯尾由貴子	〈陳進の女性像と地方色：1930年代の作品を中心に〉	《民族芸術》25号、民族芸術学会・民族芸術学会編	
五十嵐真子	〈台湾原住民と人類学〉	《現代台湾研究》35号、台湾史研究会	
池谷好治	〈台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑にみるアンビバレンス(上)〉	《季刊 戦争責任研究》67号、日本の戦争責任資料センター	2010.3
池谷好治	〈台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑にみるアンビバレンス(中)〉	《季刊 戦争責任研究》68号、日本の戦争責任資料センター	2010.6
池谷好治	〈台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑にみるアンビバレンス(下)〉	《季刊 戦争責任研究》69号、日本の戦争責任資料センター	2010.9

池原一磨	〈日本統治時代中期の台湾糖業：品種改良を中心に〉	《東洋史訪》15号、史訪会（兵庫教育大学東洋史研究会）	2009.3
池山弘	〈台湾総督府による台湾統治・建設死没者の建功神社（台北市）合祀問題：日清戦争従軍軍役夫の処遇を中心に〉	《四日市大学論集》23巻1号、四日市大学学会経済学部部会	2010.9
和泉司	〈懸賞当選作としての〈パイヤのある街〉：《改造》懸賞創作と植民地〈文壇〉〉	《日本台湾学会報》10号、日本台湾学会	2008.5
泉史生	〈《日本語教授書》：植民地台湾における最初の日本語教授用図書〉	《言語と交流》12号、言語と交流研究会	2009
磯田一雄	〈皇民化期台湾の日本語短詩文芸と戦後の再生：台湾的アイデンティテの表現を中心に〉	《天理台湾学報》19号、天理台湾学会	2010.9
板垣竜太、戸邊秀明、水谷智	〈日本植民地研究の回顧と展望：朝鮮史を中心に〉	《社会科学》88号、同社大学人文科学研究所	2010.8
伊藤真実子	〈研究動向 博覧会研究の動向について：博覧会研究の現在とその意義〉	史学会編《史学雑誌》117号第11号、皓星社	2008.10
伊藤龍平	〈昔話唱歌・唱歌劇と植民地下台湾の国語教育（特集 歌謡の時代）〉	《國學院雑誌》110巻11号、通号1231号、國學院大学総合企画部	2009.11
伊藤龍平	〈《公学校用國語讀本》の昔話資料：日本統治下台湾の国語教科書と昔話(4)〉	《昔話伝説研究》29号、昔話伝説研究会	2009.12
伊藤龍平	〈《コクゴ》《初等科國語》の昔話資料：日本統治下台湾の国語教科書と昔話(5)〉	《昔話伝説研究》30号、昔話伝説研究会	2010.12
伊藤り、坂元ひろ子、バーバラ・H・佐藤タニ・E・バーロウ、ヴェラ・マッキー	〈序論 東アジアにおけるモダンガールと植民地的近代〉	伊藤り、坂元ひろ子、タニ・E・バーロウ編《モダンガールと植民地的近代：東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー》岩波書店	2010.2
稲垣勉	〈聞き書き 廬山温泉成立史〉	《交流文化》第9号、立教大学観光学部	2009.7
井上敏孝	〈日本統治時代の基隆築港事業：港勢の変遷と基隆港における輸移出入状況を中心に〉	《現代台湾研究》36号、台湾史研究会	2009.9
井上敏孝	〈1910年：1925年期基隆の漁港整備事業の研究〉	《現代台湾研究》38号、台湾史研究会	2010.9
井上理恵	〈日本統治で生まれた川上の演劇：〈台湾鬼退治〉、〈オセロ〉、〈生蕃討伐〉〉	《吉備国際大学社会学部研究紀要》第19号、吉備国際大学	2009.3
岩崎敬道	〈植民地教育史・教科書研究（理科）の目標と視点〉	日本植民地教育史研究会運営委員会編《植民地教育史研究会のこれから》〔年報植民地研究史研究第10号〕	2008.4
上田正行・小泉浩一郎	〈講演 《台湾愛国婦人》という雑誌〉	《言語と文芸》125号、おうふう・国文学言語と文芸の会 編	2009.3
上村泰裕	〈台湾：政府が奨励した企業福祉とその変容〉	末廣昭編、《東アジア福祉システムの展望：7カ国・地域の企業福祉と社会保障制度》、ミネルヴァ書房	2010

後小路雅弘	〈昭和前半期の美術：植民地・占領期の美術〉	東京文化財研究所企画情報部編《昭和期美術展覧会の研究 戦前篇》中央公論美術出版	2009
宇都宮めぐみ	〈〈外国〉・〈植民地〉出身留学生をめぐる表象と役割：一九二四（大正一三）年同志社女学校皇后行啓に注目して〉	《同志社談叢》30号、同志社大学同志社社史資料センター	2010.3
梅山香代子	〈帝国日本と国籍：帝国解体後の国籍問題〉	《東洋学園大学紀要》18号、東洋学園大学	2010.3
遠藤正敬	〈台湾籍民をめぐる日本政府の国籍政策の出立：二重国籍問題と清国国籍法への対応を中心として〉	《早稲田政治経済学雑誌》第376号、早稲田政治経済学会	2009.12
王閏梅	〈植民地的近代と詩社的伝統意識の乖離：梁啓超の台湾訪問をめぐる〉	《中国研究月報》63巻12号、名古屋大学大学院	2009.12
王姿雯	〈坂口孺子と植民地台湾における〈受容〉と〈排除〉をめぐる〉	《東京大学中国語中国文学研究室紀要》11号、東京大学文学部中国語中国文学研究室	2008.9
王姿雯	〈昭和戦前期における日臺プロレタリア文學の交流：葉山嘉樹〈淫賣婦〉と琅石生〈閩〉〉	《東方学》116号、東方学会	2008.7
王向華・邱愷欣〔鈴木裕輔訳〕	〈日本化された台湾？中国化された台湾？あるいは日本化され中国化された台湾？：文化マッピングと文化政策の弁証法的関係（上）〉	王敏編《東アジアの日本観：文学・信仰・神話などの文化比較を中心に》、三和書籍	2011
王新衡・松井大輔・窪田 亜矢	〈日本統治時代の近代化産業遺産群と都市拡大の関係性に関する研究：台北市における縦貫鉄道沿線の鉄道および専売工場群を対象として〉	《学術講演梗概集.F：1、都市計画、建築経済・住宅問題》建造物・施設と都市形成、都市計画、社団法人日本建築学会	2010.7
王泰升〔黄詩淳訳〕	〈日本支配期における台湾人の法意識の転換：台湾法と日本法の融合〉	北海道大学大学院法学研究科編《北大法学論集》59巻2号	2008.2
王泰升〔松田恵美子訳〕	〈台湾の法文化中の日本の要素：司法の側面を例として〉	名城大学法学会《名城法学名城法学》58巻4号	2009
王泰升〔阿部由理香訳〕	〈日本の植民地統治と台湾人の政治的抵抗文化〉	笹川紀勝・金勝一・内藤光博編《日本の植民地支配の実態と過去の清算：東アジアの平和と共生に向けて》〔ICU21世紀シリーズ 第8巻〕、風行社	2010.10
王頂偈	〈台北大稻埕と西川満の文学〉	《南島史学》72号、南島史学会	2008.11
王頂偈	〈戦前期の西川満の詩集に現われる閩南語の意義〉	《東アジア文化交渉研究》3号、関西大学	2010.3
王頂偈	〈西川満《華麗島巔風録》の研究：台湾風俗の特徴と発刊の意義について〉	《千里山文学論集》83号、関西大学大学院文学研究科院生協議会	2010.3
王頂偈	〈文学作品に見られる文化交渉：西川満〈雲林記〉における〈陳林氏宝〉と〈斗六牛墟〉を例として〉	《千里山文学論集》84号、関西大学大学院文学研究科院生協議会	2010.9

王鉄軍	〈近代日本政治における台湾総督制度の研究〉	《中京法学》43 卷 1 号、中京大学法学会編	2008.7
王鉄軍	〈台湾統治と総務長官〉	《中京法学》43 卷 2 号、中京大学法学会編	2008.7
王鉄軍	〈台湾総督府司法官僚の形成：領有初期における司法制度を中心として〉	《中京法学》43 卷 3・4 号、通号 126 号、中京大学法学会	2009
王鉄軍	〈日本外地官僚の形成：日露戦争中の台湾総督府官僚を中心として〉	《中京法学》44 卷 1・2 号、通号 127 号、中京大学法学会	2009
王鉄軍	〈近代日本文官官僚制度の中の台湾総督府官僚〉	《中京法学》45 卷 1：2 号、中京大学法学会	2010.11
王徳威〔西村正男訳〕	〈ポスト遺民のエクリチュール〉	松浦恆雄・垂水千恵・廖炳恵・黄英哲《越境するテキスト：東アジア史の新しい試み》研文出版	2008.7
歐薇蘋	〈楊逵（新聞配達夫）に見られる資本主義批判：台湾社会に視点を置いて〉	《熊本大学社会文化研究》8 号、熊本大学	2010.3
王敏東	〈台湾における近代医学に影響を与えた日本人：産婦人科の場合〉	《日本医史学雑誌》(4)(1536) 日本医史学会	2009.12
大谷渡	〈記憶の中の台湾と日本(3)：統治下において高等教育を受けた人びと〉	《關西大學文學論集》58 卷 4 号、關西大学文學會	2009.3
大谷渡	〈記憶の中の台湾と日本(4) 統治下における戦争の体験〉	《關西大學文學論集》59 卷 4 号、關西大學文學會	2010.3
大橋健一	〈再創造される〈温泉文化〉：台湾北投温泉の変遷をめぐって〉	《交流文化》第 9 号、立教大学観光学部・立教大学観光学部 編	2009.7
王耀徳	〈日本統治期台湾人入学制限のメカニズム〉	《天理台湾學報》18 号、天理台湾學會	2009.7
岡部昌幸	〈近代美術の寄港地・台湾への憧憬：熊岡美彦の美術作品を中心に〉	《帝京史学》24 号、帝京大学文学部史学科	2009.2
岡部剛、安原盛彦、崎山俊雄	〈日本統治期の台湾建築会の活動に関する研究：機関誌〈台湾建築会誌〉にみる〉	《日本建築学会東北支部研究報告集 計画系》73 号、社団法人日本建築学会	2010.6
岡本真希子	〈朝鮮・台湾総督府官僚と制服：支配者たちの「身なり」〉	《東洋文化研究》10 号、学習院大学東洋文化研究所	2008.3
岡本真希子	〈植民地期の政治史を描く視角について：体制の内と外、そして〈帝国日本〉〉	《思想》1029 号、岩波書店	2010.1
岡本真希子	〈植民地統治初期台湾における内地人の政治・言論活動：六三法体制をめぐる相剋〉	《社会科学》86 号、同志社大学人文科学研究所	2010.2
岡本真希子	〈植民地在住者の政治参加をめぐる相剋：〈台湾同化会〉事件を中心として〉	《社会科学》89 号、同志社大学人文科学研究所	2010.11
奥出健	〈戦時下台湾の〈愛〉：坂口[レイ]子〈時計草〉を中心に〉	《湘南短期大学紀要》20 号、湘南短期大学・湘南短期大学アカデミックサポート委員会 編	2009
柿原泰	〈日本における植民地帝国大学史研究の現状と課題〉	《科学史研究》第 II 期第 48 卷、No.249、日本科学史学会	2009.3

籠谷 直人	〈第一次世界大戦下の東南アジア経済と日本〉	和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真編《岩波講座 東アジア近現代通史：世界戦争と改造 1910年代》第3巻、岩波書店	2011.11
葛西周	〈博覧会の舞踏にみる近代日本の植民地主義：琉球・台湾に焦点をあてて〉	《東洋音楽研究》73号、東洋音楽学会	2008.8
笠原政治	〈馬淵東一先生の生誕百年を迎えて：第2回日台原住民族研究フォーラムの開催〉	《台湾原住民研究》14号、台湾原住民研究会、風響社	2010.11
加藤茂生	〈人間科学と社会：植民地における人類学・精神医学：〉	中島義明・根ヶ山光一編《〈環境〉人間科学》現代人間科学講座第2巻、朝倉書店	2008.9
加藤茂生	〈台北帝国大学研究の現状と課題〉	《科学史研究》第II期第48巻、No.249	2009.3
加藤雄三	〈接収台湾司法〉小考	《東洋文化研究所紀要》第156冊	2009.12
香取潤哉	〈台湾日治時代における日下部鳴鶴と門流書家の活動と影響〉	《書学書道史研究》20号、書学書道史学会	2010
上水流久彦	〈現代の日本社会と台湾植民地支配のインタラクション：〈日本人だった〉という語りをめぐる〉	上田崇仁、崔錫榮、上水流久彦、中村八重編、《交渉する東アジア：近代から現代まで》、風響社	2010
紙村徹	〈台湾蘭藪址にまつわる対談における位相の差異：佐藤春夫と日影丈吉の見た台湾の闇〉	《天理台湾學報》18号、天理台湾學會	2009.7
紙村徹	〈日影丈吉の描いた台湾の〈闇の奥〉：日影丈吉はいかにして異郷台湾と出会ったのか〉	《南方文化》37号、天理南方文化研究会	2010.12
金戸幸子	〈1930年代以降の台湾における植民地的近代と女性の職業の拡大：八重山女性の職業移動を通じた主体形成を促したブル要因との関連を中心に〉	《ジェンダー研究》11号、東海ジェンダー研究所	2008.12
金戸幸子	〈〈境界〉から捉える植民地台湾の女性労働とエスニック関係：八重山女性の植民地台湾への移動と〈女中〉労働との関連から〉	《歴史評論》722号、校倉書房	2010.6
金戸幸子	〈1945年以降の八重山と台湾〉	《現代台湾研究》37号、台湾史研究会	2010.3
川路祥代	〈二二八事件と阿里山ツォウ族〉	《植民地文化研究〈第8号〉—資料と分析 特集：朝鮮・台湾・〈満洲〉8》(8)植民地文化学会	2009.7
川瀬健一	〈日本時代に台湾で上映された映画：1937（昭和12年）～1938年（昭和13年）総目録〉	《天理台湾學報》18号、天理台湾學會	2009.7
川島真	〈設立10年を経た〈台湾研究〉のイメージ（司会者総括発言）〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
河原林直人	〈植民地末期における台湾資本の存在形態〉	堀和生編著《東アジア資本主義史論》II、ミネ	2008.4

		ルヴァ書房	
河原林直人	〈植民地台湾の財界構成：1941年を中心に〉	《名古屋学院大学論集 社会科学篇》第45巻題 4号、名古屋学院大学総合研究所	2009
栢木まどか、伊藤裕久、冨永直子	〈日本統治期の台南(台湾)における都市構造の変遷と旧末廣町店舗住宅について〉	《學術講演梗概集 F:2、建築歴史・意匠》(東洋：台湾(2)・朝鮮半島、2010、社団法人日本建築学会)	2010.7
顔娟英 〔塚本磨充訳〕	〈〈日本画〉の死：日本統治時代における美術発展の困難〉	《美術研究》398号、国立文化財機構東京文化財研究所	2009.8
顔娟英〔鶴田武良・塚本磨充訳〕	〈南国美術の殿堂構造：台湾展物語〉	《〈帝国〉と美術：一九三〇年代日本の対外美術戦略》、国書刊行会	2010.11
簡玉聰	〈台湾〉	鮎京正訓編《アジア法ガイドブック》名古屋大学出版会	2009.10
菅野和郎	〈植民地期台湾における初等教育用国語教材にみる博物館〉	《玉川大学教育博物館紀要》5号、玉川大学教育博物館紀要	2008.3
紀旭峰	〈大正期台湾人留学生寄宿舎高砂寮の設置過程〉	《日本歴史》722号、吉川弘文館	2008.7
紀旭峰	〈半植民地中国〉・〈植民地台湾〉知識人からみたアジア〉	後藤乾一・紀旭峰・羅京洙 共編《亜細亜公論・大東公論 解題目次編》龍溪書舎	2008.12
紀旭峰	〈大正期台湾人(内地留学生)と近代台湾：早稲田大学専門部政治経済科を中心として〉	《アジア太平洋研究科論集》16号、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	2008.9
紀旭峰	〈安部磯雄の台湾論：大正期と昭和の台湾訪問を手がかりに〉	《アジア太平洋研究科論集》17号、早稲田大学アジア太平洋研究センター	2009.4
紀旭峰	〈大正期在京台湾人留学生と東アジア知識人：朝鮮人と中国人とのかわりを中心に〉	《アジア太平洋研究》15号、早稲田大学アジア太平洋研究センター	2010.10
北波道子	〈台湾の経済発展と〈官民二重構造〉：劉進慶教授の研究業績を再読する〉	《アジア経済》51巻1号、アジア経済研究所研究支援部	2010.1
北村嘉恵	〈〈台湾原住民族にとっての霧社事件〉を問う〉、(5)、	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
北村嘉恵	〈東洋教育史の研究動向〉	《日本の教育史学》53号、教育史學會	2010.10
北村嘉恵	〈〈教育所ニ於ケル教育標準〉(1928年)下の台湾先住民教育〉、	《日本の教育史学》53号、教育史學會	2010.10
魏得文	〈画像と文学：佐藤春夫と《植民地の旅》：日月潭、霧社、能高越を例として〉	《天理台湾学報》19号、天理台湾学会	2010.9
金富子(キム・プジャ)	〈宗主国/植民地における〈臣民〉とジェンダー：兵役義務・参政権・義務教育制〉	《季刊 戦争責任研究》66号、日本の戦争責任資料センター	2009.12

邱若山	〈佐藤春夫の台湾旅行：小田原事件への旅 (特集:旅、鉄道、そしてエッセイ)〉	《國文學：解釈と教材の研究》53 巻 6 号、学燈社	2008.4
邱坤良〔田村容子訳〕	〈在台日本演劇人と台湾演劇—松居桃楼を例に〉	王徳威、廖炳惠、松浦恆雄、安倍悟、黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010.7
許介麟	〈朝鮮と台湾：日本植民地統治の比較（下）〉	《植民地文化研究〈第8号〉—資料と分析 特集：朝鮮・台湾・〈満洲〉8》(8)植民地文化学会	2009.7
許時嘉	〈国語としての日本語から言語としての日本語へ：戦前から戦後に至るまでの台湾人の日本語観に関する一考察(1895～1946年)〉	《言葉と文化》9号、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻	2008.3
許時嘉	〈文体と国体の狭間で：日清戦争後の漢詩文意識の一端〉	《日本思想史学》42号、日本思想史学会	2010
許佩賢	〈〈愛郷心〉と〈愛国心〉の交錯：1930年代前半台湾における郷土教育運動をめぐって〉	《日本台湾学会報》10号、日本台湾学会	2008.5
Kuo Yawen (郭雅雯)・高田光雄・神吉紀世子・安枝英俊・黄蘭翔	〈日本統治時期以降における台北市青田街の日式住宅の使用状況と増改築に関する考察：台湾の日式住宅における居住空間の変容過程に関する研究 その1〉	《日本建築学会計画系論文集》73巻、社団法人日本建築学会	2008.6
Kuo Yawen (郭雅雯)・高田光雄・清水貴史	〈日本統治時期における昭和町の形成過程と日本人居住者による居住状況：台湾の日式住宅における居住空間の変容過程に関する研究(その2)〉	《日本建築学会計画系論文集》74巻 640号、社団法人日本建築学会	2009.6
Kuo Yawen (郭雅雯)・高田光雄・清水貴史	〈日本統治時期から現在までの台北市青田街における日式住宅の変容過程：台湾の日式住宅における居住空間の変容過程に関する研究(その3)〉	《日本建築学会計画系論文集》75巻 658号、日本建築学会	2010.12
久保文克	〈パネル報告 国策会社の経営史：台湾拓殖における国策性と営利性〉	《経営史学》42巻4号、経営史学会	2008.3
栗原純	〈日本統治下における旧慣尊重と同化政策：戸口調査簿における女性の姓と改姓名〉	《史論》61号、東京女子大学	2008.3
黒木信頼	〈内閣文庫における台湾関係資料：アジア歴史資料センター公開〈台湾総督府刊行物〉を中心として〉	《北の丸》42号、国立公文書館・国立公文書館編	2009.1
呉イクエ・大場修	〈日本統治時代の〈台湾建築会〉とその会誌について〉	《日本建築学会計画系論文集》74巻 639号、社団法人日本建築学会	2009.5
呉イクエ・大場修	〈日本時代台湾原住民住環境の史的研究〉、建築歴史・意匠)	《学術講演梗概集 F:2、建築歴史・意匠》(東洋:台湾(1)、2010、社団法人日本建築学会)	2010.7
呉イクエ・大場修	〈日本統治時代から戦後初期台湾原住民の〈改造蕃屋〉：アミ族を事例として〉(東洋：台湾、建築歴史・意匠)	《学術講演梗概集.F:2、建築歴史・意匠》建築歴史・意匠 2009、7:8、社団法人日本建築学会	2010
洪郁如	〈女子高等教育の植民地的展開：私立台北女子高等学院を中心に〉	香川せつ子・河村貞枝編《女性と高等教育：機会拡張と社会的相克》〔叢書・比較教育社会史〕	2008.7

		昭和堂	
洪郁如	〈植民地台湾の〈モダンガール〉現象とファッションの政治化〉	伊藤るり・坂元ひろ子・タニ・E.バーロウ編《モダンガールと植民地的近代：東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー》岩波書店	2010.2
黄英哲	〈《楊基振日記》にみる歴史叙述と時代(街談巷議)〉	《中国研究月報》64巻6号、中国研究所	2010.6
江旭本	〈ある台湾人の日本滞在記(1937：1938)：《灌園先生日記》から見た東京〉	《大月短大論集》第40号、大月短期大学・大月短期大学〔編〕	2009.3
高佳芳	〈台湾における天理教一世紀の伝道：その実態と今後の展望〉	《天理臺灣學報》第17号、天理台湾学会	2008.6
黄毓婷	〈翁鬧を読み直す：〈魍爺さん〉の語りの実験をめぐって〉	《日本台湾学会報》第10号、日本台湾学会	2008.5
黄嘉琪	〈1930年代における台湾出身者の〈日本〉への移動と要因：ライフコースの視点から〉	《華人華僑研究》第5号	2008.11
黄嘉琪	〈第二次世界大戦前後の日本における台湾出身者の定住化の一過程：ライフコースの視点から〉	《海港都市研究》3号、神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センター	2008.3
高淑玲	〈台湾における啄木文学の伝承：《臺灣教育》に見られる山口楓溪の三行書き短歌〉	《解釈：国語・国文》56巻7・8号、解釈学会	2010.7・8
高彩雯	〈郁達夫〈十三夜〉論：臺灣人畫家と西湖傳説の物語〉、	《東方学》119号、東方学会	2010.1
黄姿維	〈台湾人の食文化に対する台湾総督府の政策（1895：1945）〉	《アジア文化交流研究》5号、関西大学アジア文化交流研究センター	2010.2
黄智慧 〔鈴木洋平、森田健嗣訳〕	〈台湾における日本観の交錯：族群歴史の複雑性の視角から〉	《日本民俗学》259号、日本民俗学会	2009.8
黄美娥〔羽田朝子訳〕	〈文学のモダニティの移植と伝搬：日本統治時代の伝統文人による世界文学の受容・翻訳・模作〉	松浦恆雄・垂水千恵・廖炳惠・黄英哲《越境するテキスト：東アジア史の新しい試み》研文出版	2008.7
黄美娥〔豊田周子訳〕	〈〈文体〉と〈国体〉—日本統治期台湾漢文文言小説における日本文学越境の旅・文化の翻訳・転位〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010.7
黄麗雲	〈台湾における〈端午爬龍船〉の早期変遷について：清朝の方志資料と日本統治期の関連資料を主に〉	《教育実践学論集》9号、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科	2008.3
黄麗雲	〈第二次世界大戦前後の台湾端午扒龍船研究〉	《東洋史訪》14号、史訪会（兵庫教育大学東洋史研究会）	2008.3
呉叡人	〈賤民宣言：或いは、台湾悲劇の道徳的な意義〉	《思想》1037号、岩波書店	2010.9
五島寧	〈日本統治下台北における近代都市計画の導入に関する研究〉	《都市計画論文集》44号、日本都市計画学会・日本都市計画学会編	2009
五島寧	〈台北城の伝統的計画原理と日本統治下の台北市区計画における改編に関する論説〉	《都市計画》別冊、都市計画論文集》45、日本	2010

		都市計画学会	
後藤武秀	〈台湾における植民地支配と判例：政策の実現と司法の役割〉	笹川紀勝・金勝一・内藤光博編《日本の植民地支配の実態と過去の清算：東アジアの平和と共生に向けて》〔ICU21世紀シリーズ 第8巻〕、風行社	2010.10
古関彰一	〈帝国臣民から外国人へ：与えられ、奪われてきた朝鮮人・台湾人の参政権〉	《世界》809号、岩波書店	2010.10
小林聡明	〈韓国外交史料館所蔵中国・台湾関連文書の紹介〉	《近きに在りて》56号、汲古書院	2009.11
小林善帆	〈植民地台湾の高等女学校と礼儀作法空間〉	《民族芸術》25号、民族芸術学会・民族芸術学会編	2009年
小林善帆	〈植民地台湾の女学校といけ花・茶の湯〉	《芸能史研究》189号、芸能史研究会	2010.4
呉文星	〈日本植民地統治下における台湾近代社会の形成：映画の背景となる台湾史の一側面を語る〉	小山三郎編著《台湾映画：台湾の歴史・社会を知る窓口》晃洋書房	2008.11
呉文星	〈日本の植民地支配と台湾社会における〈近代性〉の形成について〉	《研究紀要》23号、日本大学通信教育部通信教育研究所	2010.3
後藤乾一	〈日本近現代史研究と《亜細亜公論》：〈アジアの中の日本〉を考える素材として〉	後藤乾一・紀旭峰・羅京洙共編《亜細亜公論・大東公論 解題目次編》龍溪書舎	2008.12
駒込武	〈台湾史研究の動向と課題：学際的な台湾研究のために〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
駒込武	〈台湾原住民族にとっての霧社事件：特集に寄せて〉	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
呉密察〔藤井康子訳〕	〈霧社事件研究の課題〉	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
五味淵典嗣	〈対抗的公共圏の言説編制：《新高新報》日文欄をめぐる〉	《大妻女子大学紀要》40号、大妻女子大学	2008.3
五味淵典嗣	〈山本夷彦年譜考：《東京毎日新聞》時代を中心に〉	《大妻国文》40号、大妻女子大学国文学会	2009.3
蔡錦堂	〈戦前期台湾の公学校国語教科書と日本の国定教科書との比較〉	《植民地教科書と国定教科書》第11号（植民地教育史研究年報第11号 2008）、皓星社、	2009.6
齋藤直	〈国策会社における〈国策性〉と〈営利性〉：戦時期の台湾拓殖における増資をめぐる議論の検討〉	《早稲田商学》416号、早稲田商学同攻会	2008.6
齋藤直	〈戦時経済下における資本市場と国策会社：台湾拓殖が直面した株式市場からの制約〉	《経営史学》43巻4号、経営史学会	2009.3
齋藤直	〈台湾拓殖の社債発行と政府保証：第1回社債発行の準備過程を中心に〉	《日本植民地研究》22号、日本植民地研究会	2010.6
齋藤尙文	〈摂政宮台湾行啓の研究：学校行啓の実際とその意義〉	《現代台湾研究》36号、台湾史研究会	2009.9
齋藤尙文	〈鈴木商店の台湾進出と製腦事業の展開について〉	《現代台湾研究》38号、台湾史研究会	2010.9
齋藤正志	〈植民地の文教政策と源氏物語・台湾編〉	《国文学 解釈と観賞》第73：5	2008

蔡龍保	〈長谷川謹介と日本統治時代台湾の鉄道発展〉	《現代台湾研究》第35号、台湾史研究会	2009.3
酒井恵美子	〈植民地編教科書の中の隠されたカリキュラム〉	中京大学社会科学研究所《社会科学研究》第28卷第1号	2008.2
酒井恵美子・中田敏夫	〈台湾総督府編纂《蕃人読本》語彙表〉	《社会科学研究》30卷1・2号、中京大学社会科学研究所	2010.3
坂根慶子	〈台湾法制史から見た〈法治〉についての一考察〉	《中央学院大学法学論叢》22(2)、中央学院大学	2009.2
坂部晶子	〈研究紹介 重層的被支配の狭間の経験：台湾から満洲へ〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》不二出版	2008.6
坂本慎一	〈松下幸之助と下村宏の道州制論：台湾総督府の州庁制と大戦末期における地方総監府制の重要性〉	《論叢松下幸之助》第9号、PHP 総合研究所第一研究本部	2008.4
崎山俊雄	〈日本統治初期における台湾総督府の官舎制度について：台湾総督府の官舎建築に関する歴史的研究 その1〉	《学術講演梗概集.F:2、建築歴史・意匠》日本近代:官舎・社宅、建築歴史・意匠、2010、社団法人日本建築学会	2010.7
佐々木揚	〈研究動向 最近一〇年間の中国における日清戦争史研究〉	東アジア近代史学会編《東アジア近代史》第11号	2008.3
佐藤正広	〈台湾における農家経済調査：比較史的観点から〉	佐藤正広編《農家経済調査の資料論研究：斎藤萬吉調査から大槻改正まで(1880:1940年代)》、一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター	2009.3
佐藤由美	〈日本統治下台湾からの工業留学生：林淵霖の場合〉	《埼玉工業大学人間社会学部紀要》8号、埼玉工業大学人間社会学部図書・紀要委員会編	2010.3
ジェニー・ヒートン (Heaton Jenine L)	〈日本台湾統治初期下の教育：伊沢修二と芝山巖学堂〉	《東アジア文化環流》2巻2号、通号第4号、関西大学アジア文化交流研究センター・〈東アジア文化環流〉研究会	2009.7
ジェニー・ヒートン	〈日本統治時代における芝山巖事件の余波：巻き込まれた3人の運命〉	《アジア文化交流研究》5号、関西大学アジア文化交流研究センター	2010.2
柴田善雅	〈台湾拓殖株式会社の南方事業活動〉	《日本植民地研究》20号、日本植民地研究会	2008.6
清水美里	〈日本植民地期台湾における〈水の支配〉と抵抗〉	《言語・地域文化研究》〔東京外国語大学大学院博士後期課程論叢〕15号、東京外国語大学大学院地域文化研究科	2009.3
清水美里	〈八田與一物語の形成とその政治性：日台交流の現場からの視点〉	《日本オーラル・ヒストリー研究》5号、日本	2009.9

		オーラル・ヒストリー学会	
下岡友加	〈雑誌《台湾愛国婦人》の文芸欄：白鷺山人〈空中女王〉の語るもの〉	《現代台湾研究》33号、台湾史研究会	2008.3
下岡友加	〈雑誌《台湾愛国婦人》の史的位：新資料・第六十巻を中心に〉	《日本研究》22巻、日本研究研究会	2009.5
下岡友加	〈雑誌《台湾愛国婦人》の性格：プロパガンダ、そして近代文学発生の場として〉	《県立広島大学人間文化学部紀要》5号、県立広島大学	2010.2
下村作次郎	〈台湾研究、この10年、これからの10年、関西地域における台湾研究〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
下村作次郎	〈〈ガヤ〉回復への歩み：霧社事件研究の意味を考える〉	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
謝惠貞	〈台湾人作家巫永福における日本新感覚派の受容：横光利一〈頭ならびに腹〉と巫永福〈首と体〉の比較を中心に〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
謝惠貞	〈巫永福〈眠い春杏〉と横光利一〈時間〉：新感覚派模写から〈意識〉の発見へ〉	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
周婉窈〔李〔ハイ〕蓉訳〕	〈植民地主義の後遺症：台湾を中心に〉	《立命館言語文化研究》20巻第3号、立命館大学	2009.2
朱徳蘭	〈台湾〈慰安婦〉問題：論争と研究〉	《歴史学研究》No.849、歴史学研究会	2009.1
朱徳蘭	〈基隆杜寮島の沖縄人集落（一八九五：一九四五）〉	上里賢一・高良倉吉・平良妙子編《東アジアの文化と琉球・沖縄：琉球/沖縄・日本・中国・越南》、彩流社	2010.4
鍾家新	〈内務省の台湾統治：後藤新平による実践と批判〉	副田義也編《内務省の歴史社会学》、東京大学出版会	2010.8
鐘淑敏	〈植民地から大陸へ—台湾海峡を渡った日本人〉	貴志俊彦・谷垣真理子・深町英夫 編《模索する近代日中関係：対話と競争の時代》東京大学出版会	2009.6
白井征彰	〈《臺灣日日新報》から見る台北水道：台北水道竣工までの鑽井利用〉	《東洋史訪》16号、史訪会（兵庫教育大学東洋史研究会）	2010.3
白柳弘幸	〈戦前文部省・台湾総督府・朝鮮総督府発行教科書の発行年比較〉	《植民地教科書と国定教科書》11号（植民地教育史研究年報第11号 2008）、皓星社、	2009.6
白柳弘幸	〈台中県清水国民小学〈誠之字石碑〉と台北県板橋国民小学〈枋橋建学碑〉〉	《植民地教科書と国定教科書》11号（植民地教育史研究年報第11号 2008）、皓星社、	2009.6
白柳弘幸	〈台湾総督府発行教科書について〉	《玉川大学教育博物館紀要》7号、玉川大学教育博物館	2010.3
申育誠	〈台湾における体罰問題に関する研究〉	《東北大学大学院教育学研究科研究年報》59巻1号、東北大学大学院教育学研究科	2010.12

菅原和子	〈戦時体制下の市川房枝：植民地台湾における皇民奉公（皇民化）運動をめぐって〉	《法学新報》116 巻 11・12 号、中央大学法学会	2010.3
杉本麗華	〈台湾における〈日本語人〉の形成過程についての一考察：日本人元居住者の証言に基づいて〉	《天理台湾学報》19 号、天理台湾学会	2010.9
鈴木賢・片桐由喜・島田弦・浅野直之・西英明	〈アジア法〉	《法律時報》81 巻第 137 号、通巻 1016 号	2009 年 12
鈴木賢・片桐由喜・島田弦・浅野直之・西英明	〈アジア法〉	《法律時報》82 巻第 13 号、通巻 1029 号	2010.12
関口浩	〈折口信夫と台湾原住民研究〉	《成蹊大学一般研究報告》43 号、成蹊大学	2010.5
芹澤 良子	〈統計書から見た植民地台湾における医療政策：ハンセン病療養所創設以前の時期を対象として〉	《人間文化創成科学論叢》第 1 巻、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	2009.3
詹秀娟	〈楊威理著《ある台湾知識人の悲劇》〉	《新潟産業大学人文学部紀要》21 号、新潟産業大学附属研究所	2010.3
曾山毅	〈植民地台湾における〈近代観光〉の形成〉	愛知大学現代中国学会編《中国 21》29、風媒社	2008.3
曾山毅	〈日本統治期の台湾における旅行と観光のオーラルヒストリー（1）〉	《商経論叢》50 巻 2 号、九州産業大学商学会	2010
曾耀鋒	〈戦前台湾の保険判例に関する一考察：保険金支払場所と裁判管轄を中心として〉	《生命保険論集》169 号、生命保険文化センター	2009.12
胎中千鶴	〈帝国日本の相撲：外地から見た〈国技〉と大相撲〉	《現代思想》38 巻 13 号、青土社	2010.11
高井ヘラー由紀	〈植民地統治構造におけるキリスト教とその越境性に関する一考察：1910 年代の台湾 YMCA と K.W.ダウイを中心に〉	《同志社アメリカ研究》45 号、同志社大学アメリカ研究所	2009.3
高嶋朋子	〈明治期の〈在台内地人〉初等教育について：《台湾教育会雑誌》所収記事から見る問題〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》、不二出版	2008.6
高嶋朋子	〈大正期〈在台内地人〉教育に関する一考察：台湾高等小学校による中等教育機関の補完と実業教育路線への変更について〉	《同志社女子大学大学院文学研究科紀要》9 号、同志社女子大学大学院文学研究科・同志社女子大学大学院文学研究科	2009.3
高良留美子	〈真杉静枝と台湾経験：昭和文学の失われた輪（ミッシング・リング）〉	《社会文学》29 号、日本社会文学会	2009.1
タクン・ワリス 〔魚住悦子訳〕	〈ガヤと霧社事件〉	《日本台湾学会報》12 号、日本台湾学会	2010.5
タクン・ワリス 〔魚住悦子訳〕	〈Takun Walis 邱建堂 口述歴史〉	《日本台湾学会報》12 号、日本台湾学会	2010.5
ダックス・パワン 〔下村作次郎訳〕	〈Kari Alang Nu Gluban（清流部落簡史）〉	《日本台湾学会報》12 号、日本台湾学会	2010.5
田中梓都美	〈伊能嘉矩の台湾認識と原住民の〈首狩り〉習俗に関する言説〉	《史泉》111 号、関西大学史学・地理学会	2010.1
玉井 清	〈戦時下の台湾〉	《法学研究》82 号 5 号、慶応義塾大学法学研究	2009.5

		会	
垂水千恵	〈台湾人プロレタリア作家楊達の抱える矛盾と葛藤について〉	《國文學・解釈と教材の研究》第54巻第1号(通号779)、學燈社	2009.1
垂水千恵	〈中西伊之助と楊達—日本人作家が植民地台湾で見たもの〉	横浜国立大 学留学生センター編《国際日本学入門 トランスナショナルへの12章》、成文社	2009.3
田和正孝	〈1910年代の台湾本島における石滬漁業〉	《地理》55巻2号、古今書院	2010.2
千々岩力	〈"1940年頃の蘭嶼"(台湾タオ族)：千々岩助太郎のNHK解説から〉	《高岡法科大学紀要》21号、高岡法科大学	2010.3
張曉旻	〈植民地台湾における公娼制の確立過程(1896年～1906年)：〈貸座敷・娼妓取締規則〉を中心に〉	《現代台湾研究》第34号、台湾史研究会	2008.9
張曉旻	〈植民地台湾における公娼制導入過程の実証的解明：1896年の台北県を事例として〉	《国際文化学》21号、神戸大学	2009.9
張曉旻	〈植民地台湾における公娼制導入の背景：軍政下の〈性〉問題を手がかりとして〉	《日本文化論年報》13号、神戸大学大学院国際文化学研究科日本文学コース	2010.3
張曉旻	〈植民地台湾における強制性病検診治療制の確立過程〉	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
張曉旻	〈植民地台湾における集娼制の確立過程：公娼制の導入から台南本島人遊廓の成立まで〉	《現代台湾研究》38号、台湾史研究会	2010.9
趙國輝	〈陈季同与台湾民主国策略〉	《SHONAN JOURNAL : The International Journal of the Shonan Research Institute Bunkyo University》1号、Shonan Research Institute Bunkyo University (文教大学)	2010.3
張紋絹	〈植民地台湾における台北市の空間創出：盛り場〈西門町附近〉を中心に〉	《大阪大学日本学報》27号、大阪大学大学院文学研究科日本文学研究室	2008.3
陳偉智〔星名宏修訳〕	〈"患ったのは時代の病"：鶏籠生とその周辺〉	松浦恆雄・垂水千恵・廖炳惠・黄英哲《越境するテキスト：東アジア史の新しい試み》、研文出版	2008.7
陳映竹	〈日本統治時代台湾におけるバナナの対日輸出〉	《千里山文学論集》82号、関西大学大学院文学研究科・関西大学大学院文学研究科《千里山文学論集》編集委員会編	2009.9
陳自強〔黄淨愉・鈴賢訳〕	〈台湾民法の百年：財産法の改正を中心として〉	《北大法学論集》61巻3号、北海道大学大学院法学研究科	2010.9
陳艷紅	〈台湾文学史上における《民俗臺灣》〉	西川潤・蕭新煌編《東アジア新時代の日本と台湾》、明石書店	2010.2
陳虹彰	〈1937年以降の台湾における台湾人初学年生徒用の国語教科書について〉	日本植民地教育史研究会運営委員会編《植民地	2008.4

		教育史研究会のこれから》〔年報植民地研究史研究第10号〕	
陳虹彰	〈日本統治下台湾の初等國語教科書における台湾人向け教材について：1937：1945年の教材を中心に〉	《平安女学院大学研究年報》9号、平安女学院大学国際観光学部	2009.3
陳虹彰	〈台湾総督府編修官加藤春城の〈自叙畧伝〉	《植民地教科書と国定教科書》11号（植民地教育史研究年報第11号 2008）、皓星社、	2009.6
陳虹彰	〈台湾公学校國語教科書の観光・旅行記述に関する一試論：第四期《公学校用國語読本》（1937：42年）を素材として〉	《平安女学院大学研究年報》10号、平安女学院大学	2010.6
陳慈玉〔小林元裕訳〕	〈植民地期から戦後における台湾の社会運動史研究について〉	《年報日本現代史》編纂委員会編《年報日本現代史》13号、現代史料出版	2008.8
陳慈玉〔星野多佳子訳〕	〈戦時経済統制下の台湾炭鉱業：1937：1945〉	金丸裕一編《近代中国と企業・文化・国家》、ゆまに書房	2009.3
陳慈玉	〈台湾バナナ産業と対日貿易：1912：1972年〉	《立命館経済学》59巻2号、立命館大学経済学会	2010.7
陳慈玉・蕭明禮〔村上正和訳〕	〈日本統治期の台湾セメント産業と対華南貿易〉	田島俊雄・朱蔭貴・加島潤編《中国セメント産業の発展：産業組織と構造変化》、御茶の水書房	2010.3
陳培豊	〈同文の植民地支配が生んだ文体の想像—帝国漢文・植民地漢文・中国白話文〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010.7
陳培豊	〈演歌の在地化—重層的な植民地文化からの自助再生の道〉	西川潤・蕭新煌編《東アジア新時代の日本と台湾》、明石書店	2010.2
沈美雪	〈《相思樹》小考：台湾最初の俳誌をめぐって〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
陳雅萍〔鈴木雅恵訳〕	〈解放と統制：初期台湾モダンダンスにおける植民地的近代と女性の舞踊身体〉	《西洋比較演劇研究》9号、日本演劇学会分科会西洋比較演劇研究会	2010
陳瑜	〈台北帝国大学理農学部製糖化学講座と台湾製糖産業の発展：浜口栄次郎の研究業績を中心に〉	《現代台湾研究》34号、台湾史研究会	2008.9
陳瑜	〈台北帝国大学理農学部〈農学・熱帯農学講座〉の研究成果について〉	《教育実践学論集》9号、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所	2008.3
辻直人	〈台南長老教中学の教育同盟加盟の背景と意義について〉	《キリスト教学校教育同盟百年史紀要》8号、キリスト教学校教育同盟百年史編纂委員会	2010.6
辻雄二	〈矢内原忠雄〈台湾調査ノート〉の分析〉(1)	《琉球大学教育学部紀要》745号、琉球大学教育学部	2009.2
辻雄二	〈矢内原忠雄〈台湾調査ノート〉の分析〉(2)	《琉球大学教育学部紀要》746号、琉球大学教育学部	2009.8

辻雄二	〈矢内原忠雄〈台湾調査ノート〉の析(3)〉	《琉球大学教育学部紀要》76号、琉球大学教育学部	2010.2
津田敬子	〈植民地早期台湾の農業戸数変動とその要因：公表値の検証と地域格差〉	《大阪学院大学経済論集》22巻1号、大阪学院大学経済学会	2008.6
津田敬子	〈植民地台湾の戸口調査組織《保良局》と《保甲局》の形成過程〉	《地域公共政策研究》14号、地域公共政策学会	2008.2
都通憲三郎	〈植民地期台湾における新教育の受容：構成式話し方教授法の開発と展開〉	《現代台湾研究》33号、台湾史研究会	2008.3
中西美貴	〈日本統治下の北部台湾における先住民女性と和服：タイヤル族を中心に〉	《女性学年報》29号、日本女性学研究会	2008.11
中西美貴	〈台湾抗日運動における東京台湾留学生の役割と女性の位置〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》不二出版	2008.6
中西美貴	〈宗主国民衆の日常における植民地理解—博覧会報道における台湾へのまなざしに注目して〉	《ソシオロジ》52巻3号、社会学研究会	2008.2
坪田=中西美貴	〈帝国と民族の間で：日本統治初期の台湾における〈化蕃婦〉という生き方〉	《ジェンダー史学》5号、ジェンダー史学会	2009
坪田=中西美貴	〈〈解題〉台湾女性の近代経験とライフ・コースの変容〉	野村鮎子、成田静香編《台湾女性研究の挑戦》人文書院	2010.4
鄭昭民	〈藤島亥治郎の《台湾の建築》に関する考察〉	《学術講演梗概集.F:2、建築歴史・意匠》東洋:台湾(1)、2010、社団法人日本建築学会	2010.7
鄭任智	〈台湾の日本統治時代における〈國語〉教科書に見られる原住民の記述に関する考察〉	日本国際教育学会創立20周年記念年報編集委員会編《国際教育学の展開と多文化共生》、学文社	2010
唐顯芸	〈王白淵の東京留学について〉	《日本台湾学会報》第10号、日本台湾学会	2008.5
鄧相揚〔魚住悦子訳〕	〈日本統治時代の霧社群(タックダヤ)の部落の変遷〉	《天理臺灣學報》17号、天理台湾学会	2008.6
富田哲	〈〈大人(タイジン)〉が学ぶ言語、〈大人〉が向き合う台湾〉	《異文化研究》第3号、山口大学人文学部異文化交流研究施設	2009.3
富田哲	〈日本統治開始直後の〈台湾土語〉をめぐる知的空間の形成〉	《多言語社会研究会 年報》第5号	2009.12
中島利郎	〈日本統治期台湾文学研究 日本人作家の系譜：詩魂の漂泊・長崎浩(台湾編)〉	《岐阜聖徳学園大学紀要：外国語学部編》48号、岐阜聖徳学園大学	2009.2
中島利郎	〈日本統治期台湾文学研究 日本人作家の系譜：詩魂の漂泊・長崎浩(帰郷・新潟編)〉	《岐阜聖徳学園大学紀要：外国語学部編》49号、岐阜聖徳学園大学	2010.2
中澤信幸	〈《日台大辞典》付載〈日台字音便覧〉について〉	《山形大学大学院社会文化システム研究科紀要》7号、山形大学人文学部	2010.10
中生勝美	〈陳紹馨の人と学問：台湾知識人の戦前と戦後〉	《桜美林大学紀要 日中言語文化》7号、桜美林大学文学部中国語中国文学科	2009.3

波形昭一	〈植民地台湾における地場普通銀行の経営分析：1905～1913年の嘉義銀行と彰化銀行を事例に〉	《独協経済》第86号、独協大学経済学部・独協大学経済学部	2009.4
西川潤	〈日本の台湾統治思想——後藤新平、田健治郎、矢内原忠雄〉	西川潤・蕭新煌編《東アジア新時代の日本と台湾》、明石書店	2010.2
西村正男	〈日本語・中国語双方の文脈における戦争の語りとスパイ像—鄭蘋如を例として〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010.7
新田龍希	〈日本人は台湾街屋にどのように住んだのか?: 日本統治初期台北における日本人の住まい〉	《学術講演梗概集.F:2、建築歴史・意匠》東洋:台湾(1)、2010、社団法人日本建築学会	2010.7
野入直美	〈生活史から見る沖縄・台湾間の双方向的移動〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》、不二出版	2008.6
野口周一	〈下村虎人とあらたま社：下村湖人の台湾における教育・文化活動〉	《比較文化史研究》11号、比較文化史学会	2010.3
野林厚志	〈文化資源としての博物館資料：日本統治時代に収集された台湾原住民族の資料が有する現地社会での意義〉	《国立民族学博物館研究報告》34巻4号、人間文化研究機構国立民族学博物館	2010.3
野林厚志	〈展示会〈百年來の凝視〉を共催して：順益台湾原住民博物館開館15周年記念特別展〉	《台湾原住民研究》14号、台湾原住民研究会、風響社	2010.11
野村鮎子	〈新文学が駆逐したもの：黄美娥論文に寄せて〉	松浦恆雄・垂水千恵・廖炳惠・黄英哲《越境するテキスト：東アジア史の新しい試み》、研文出版	2008.7
野村鮎子	〈台湾の女性研究および女性史研究の可視化をめざして：《台湾女性史入門》から《台湾女性研究の挑戦》まで〉	《近きに在りて》58号	2010.11
秦郁彦	〈靖国神社の祭神たち（二）〉	《日本法学》74巻1号、日本大学法学会	2008.5
波多野想	〈明治末期の金瓜石鉱山における施設の整備：日本植民地下台湾における鉱山景観の形成と変容に関する研究 その1〉	《2008年度日本建築学会関東支部研究報告集》9025号	2009.3
濱田麻矢	〈三人の越境する女たち〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010.7
春山明哲	〈日本台湾学会の10年を振り返って〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
春山明哲	〈霧社事件研究の回顧と展望〉	《日本台湾学会報》12号、日本台湾学会	2010.5
春山明哲	〈台湾旧慣調査の歴史的意義〉	西川潤・蕭新煌編《東アジア新時代の日本と台湾》、明石書店	2010.2
林ひふみ	〈満洲国の台湾人と日本人、その戦後 董清財、吉崎ヨシ夫妻の足跡〉	《明治大学教養論集》441号、明治大学教養論集刊行会	2009.1

久末亮一	〈〈華南銀行〉の創設：台湾銀行の南進における〈大華僑銀行〉案の形成と結実:1912：1919〉	《アジア経済》51 巻 7 号、アジア経済研究所研究支援部	2010.7
氷見山幸夫・後藤友紀	〈台湾における 1925 年頃以降の都市化〉	《北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告》42 号	2008.3
平井健介	〈第一次大戦期～1920 年代の東アジア精白糖市場：中国における日本精製糖販売の考察を中心に〉	《社会経済史学》76 巻 2 号、社会経済史学会	2010.8
平井健介	〈1910～30 年代台湾における肥料市場の展開と取引メカニズム〉	《社会経済史学》76 巻 3 号、社会経済史学会	2010.11
平井健介	〈台湾の稲作における農会の肥料事業（1902-37 年）：台中の事例〉	《日本植民地研究》22 号、日本植民地研究会	2010.6
平井健介	〈包装袋貿易から見た日本植民地期台湾の対アジア関係の変容〉	《アジア経済》51 巻 9 号、アジア経済研究所研究支援部	2010.9
平川均	〈故劉進慶教授と〈台湾経済分析〉：北波道子〈台湾の経済発展と《官民二重構造》：劉進慶教授の研究業績を再読する〉を素材にして〉	《アジア経済》51 巻 1 号、アジア経済研究所研究支援部	2010.1
平田勝政	〈1920 年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究〉	《長崎大学教育学部紀要教育科学》72 号、長崎大学教育学部	2008.3
平田勝政	〈1920 年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究〉	《研究論文集：教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集：》Vol.2、No.2、九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会	2009.3
深川治道	〈明治期の天理教台湾伝道〉	《天理台湾學報》18 号、天理台湾學會	2009.7
傅琪貽	〈〈蕃人内地観光〉をどう見るべきか〉	《植民地文化研究》9 号、植民地文化研究会	2010
藤井康子	〈1920 年代台湾における高雄州設置と中等学校誘致問題：高雄・鳳山・屏東各街の日台人の動向に着目して〉	《日本台湾学会報》12 号、日本台湾学会	2010.5
藤澤太郎	〈金川中学校から見える〈都市〉、岡山と東京と：張文環・岡山時期の学籍問題を出発点とした台湾人内地地方留学生の意識をめぐる論考〉	《櫻美林世界文学》6 号、桜美林大学世界文学会	2010.3
藤永壮	〈資料紹介 十五年戦争期・台湾の接客業—《台湾日日新報》の記事より〉	《季刊 戦争責任研究》66 号、日本の戦争責任資料センター	2009.12
ヘニング・クレーター 〔藤田美佐役〕	〈台湾における言語編制の変遷—イデオロギーと効果〉	松尾慎、Patrick Heinrich《東アジアにおける言語復興：中国・台湾・沖縄を焦点に》、三元社	2010.8
卞鳳奎	〈日本台湾統治時代における台湾人の八重山諸島への移民活動〉	《南島史学》第 74 号、南島史学会	2009.12
卞鳳奎	〈日本統治時代台湾帽子商人の日本における活動〉	《アジア文化交流研究》第 4 号、関西大学アジア文化交流研究センター・関西大学アジア文化交流研究センター編	2009.3

星名宏修	〈〈読者大衆〉とは誰のことか?〉	松浦恆雄・垂水千恵・廖炳惠・黄英哲《越境するテキスト：東アジア史の新しい試み》研文出版	2008.7
星名宏修	〈台湾文学研究、この10年、これからの10年〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
星名宏修	〈萬華と犯罪—林熊生〈指紋〉をめぐって〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010
星名宏修	〈司法的同一性と〈贖〉日本人：林熊生〈指紋〉をめぐって(その2)〉	《立命館文學》615号、立命館大学	2010.3
堀内寛雄	〈憲政資料中の戦前期朝鮮・台湾・中国東北部関係資料〉	《参考書誌研究》69号、国立国会図書館、国立国会図書館主題情報部	2008.10
堀内義隆	〈植民地台湾における民族工業の形成：製帽行を事例として〉	《日本史研究》556号、日本史研究会	2008.12
堀内義隆	〈近代台湾における中小零細商工業の発展〉	堀和生編著《東アジア資本主義史論》Ⅱ、ミネルヴァ書房	2008.4
堀内 義隆	〈日本植民地期台湾における機械市場の形成と機械工業の発展〉	《現代台湾研究》第35号、台湾史研究会	2009.3
堀内義隆	〈日本植民地期台湾における農村工業の発達と労働供給〉	《三重大学法経論叢》27巻2号、三重大学社会科学学会	2010.3
堀和生	〈東アジア資本主義史論の射程：貿易構造の分析〉	堀和生編著《東アジア資本主義史論》Ⅱ、ミネルヴァ書房	2008.4
堀和生	〈東アジアにおける資本主義の形成：日本帝国の歴史的 성격〉	《社会経済史学》76巻3号、社会経済史学会	2010.11
ポール・パークレー 〔池上直子訳〕	〈〈日本通〉の目を通して見た台湾：太平洋戦争直前にアメリカ領事館が収集していた絵葉書と写真〉	《台湾原住民研究》第12号、台湾原住民研究会、風響社	2008.3
本庄孝子	〈《百年滄桑(そうそう)》からみる台湾水力発電の父・土倉龍次郎の足跡〉	《大阪産業大学人間環境論集》9号、大阪産業大学	2010.3
前田均	〈国語学の盲点としての海外日本語の変種〉	《日本言語文化研究》14号、日本言語文化研究会〔龍谷大学〕	2010.3
真栄平房昭	〈近代の台湾航路と沖縄：外来・在来をめぐる東アジア海運史の一視点〉	《史学研究》268号、広島史学研究会	2010.6
牧野秀臣	〈西郷菊次郎：台湾統治(その1)〉	《鉄道と電気技術》21巻10号、日本鉄道電気技術協会	2010.9
牧野秀臣	〈西郷菊次郎：台湾統治(その2)〉	《鉄道と電気技術》21巻10号、日本鉄道電気技術協会	2010.11
牧野秀臣	〈西郷菊次郎：台湾統治(その3)〉	《鉄道と電気技術》21巻10号、日本鉄道電気技術協会	2010.12
瑪莎・拓輝 (Masa Tohui)	〈台湾原住民アタヤル族の過去、現在と未来について〉	《現代台湾研究》第35号、台湾史研究会	2009.3

松浦章	〈清国上海銭荘の破綻と日本植民地時代台湾経済への影響〉	《アジア文化交流研究》5号、関西大学アジア文化交流研究センター	2010.2
松浦章	〈日本統治時代台湾における北辰館輪船会社の航運〉	《東アジア文化環流》3巻1号、関西大学文学部東洋史研究室/〈東アジア文化環流〉研究会	2010.1
松尾教史	〈台湾時代における川合三良の文学作品：ある在内地人作家にとっての皇民化政策〉	《コア・エシックス》5、立命館大学大学院先端総合学術研究科[編]	2009.1
松下迪生	〈第五回内国勸業博覧会台湾館〈篤慶堂〉の移築について〉	《学術講演梗概集.F:2、建築歴史・意匠》東洋:台湾(1)、2010、社団法人日本建築学会	2010.7
松下迪生・石田潤一郎	〈1903年第五回内国勸業博覧会台湾館の設置経緯について〉	《日本建築学会計画系論文集》75巻648号	2010.2
松田京子	〈植民地支配下の台湾原住民をめぐる〈分類〉の思考と統治実践〉	《歴史学研究》第846号(増刊)、歴史学研究会	2008.1
松田ヒロ子	〈総説〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》、不二出版	2008.6
松田ヒロ子	〈沖縄県八重山地方から植民地台湾への人の移動〉	蘭信三編著《日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学》、不二出版	2008.6
松田吉郎	〈稲江信用組合附属商業夜学校について〉	《教職課程研究》第18集、姫路獨協大学教職課程研究室	2008.3
松田吉郎	〈郭廷俊の社会事業について〉	《東洋史訪》第14号、史訪会(兵庫教育大学東洋史研究会)(兵庫教育大学東洋史研究会)	2008.3
松田吉郎	〈保証責任埔仔信用購買販売利用組合について〉	《現代台湾研究》35号、台湾史研究会	2009.3
松永正義	〈台湾における魯迅〉	《言語社会》4号、一橋大学大学院言語社会研究科	2010.3
松本武彦	〈台湾の地域博物館における日本の表象：高雄市立歴史博物館の〈日本〉〉	《大学改革と生涯学習》14号、山梨学院生涯学習センター	2010.3
松本武彦	〈現代台湾の地域政治と歴史認識：台湾の地域史博物館における〈日本〉理解〉	《山梨学院大学法学論集》65号、山梨学院大学	2010.3
三尾裕子	〈〈蕃語編纂方針〉から見た日本統治初期における台湾原住民語調査〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
三尾裕子	〈台湾研究この10年：台湾を対象とした人類学の発展過程〉	《日本台湾学会報》11号、日本台湾学会	2009.5
三澤真美恵	〈植民地台湾における映画受容の特徴〉	小山三郎編著《台湾映画：台湾の歴史・社会を知る窓口》晃洋書房	2008.11
三澤真美恵	〈映画フィルム資料の歴史的考察に向けた試論—台湾教育会製作映画《幸福の農民》(一九二七年)をめぐる〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010.7
水田憲志	〈八重山と台湾を行き交う人とのもの〉	《地理》55巻2号、古今書院	2010.2

水田憲志	〈1930年代の石垣島における台湾人農業移民の入植過程〉	野間晴雄編《文化システムの磁場：16：20世紀アジアの交流史》、関西大学東西学術研究所	2010.3
皆川 隆一	〈鳥居龍蔵撮影〈海辺の景〉の疑問：：紅頭嶼古写真調査ノート(1)〉	《台湾原住民研究》14号、台湾原住民研究会、風響社	2010.11
湊照宏	〈戦時日本におけるセメント産業の構造調整：回轉窯の対アジア移設〉	田島俊雄・朱蔭貴・加島潤編《中国セメント産業の発展：産業組織と構造変化》、御茶の水書房	2010.3
宮崎聖子	〈青年期的教育及戦争對男性特質の影響：：以日治時期臺灣爲例〉	《南島史学》75・76号、南島史学会	2010.11
宮畑加奈子	〈台湾法史における〈台湾法〉の位相：：日本統治時期への処遇を主軸にして〉	《憲法論叢》17号、関西憲法研究会	2010.12
宮本義信	〈台湾"社会福利"通史：1895：2009：〉	《同志社女子大学学術研究年報》60巻	2009.12
宮本義信	〈日本植民地下台湾の稲江義塾：稲垣藤兵衛の基督教社会事業をどうとらえるか〉	《キリスト教社会福祉学研究》42号、日本キリスト教社会福祉学会	2009
宮本義信	〈"同志社人"稲垣藤兵衛の基督教社会事業をどうとらえるか：日本統治時期台湾の稲江義塾を中心に〉	《総合文化研究所紀要》27号、同志社女子大学総合文化研究所(教育・研究推進センター)	2010.3
谷ヶ城秀吉	〈台湾〉	日本植民地研究会編《日本植民地研究の現状と課題》アテネ社	2008.6
谷ヶ城秀吉	〈函館における海産物移出の展開と植民地商人〉	《社会経済史学》75巻1号、社会経済史学会	2009.5
谷ヶ城秀吉	〈戦間期における青果物流通機構の形成と〈帝国〉：台湾バナナを事例に〉	《立教経済学研究》63巻3号、立教大学経済学研究会	2010.1
谷ヶ城秀吉	〈戦時経済の展開と資本市場：日本植民地・勢力圏における国策会社との関連から〉	《日本植民地研究》22号、日本植民地研究会	2010.6
谷ヶ城秀吉	〈戦時経済下における国策会社の利益確保行動：台湾拓殖を事例に〉	《日本植民地研究》22号、日本植民地研究会	2010.6
谷ヶ城秀吉	〈20世紀初頭における台湾：中国間経済関係の展開：烏龍茶輸出貿易の変容を事例に〉	《立教経済学研究》64巻1号、立教大学経済学研究会	2010.7
谷ヶ城秀吉	〈戦間期における台湾米移出過程と取引主体〉	《歴史と経済》52巻4号、政治経済学・経済史学会	2010.7
役重善洋	〈内村鑑三・矢内原忠雄におけるキリスト教シオニズムと植民地主義：近代日本のオリエンタリズムとパレスチナ／イスラエル問題〉	《アジア・キリスト教・多元性》8号、現代キリスト教思想研究会	2010.3
山口守	〈台湾文学研究の現在：歴史・言語・共同性をめぐって〉	《中国-社会と文化》第24号、中国社会文化学会	2009.7
山路勝彦	〈日英博覧会と〈人間動物園〉〉	《関西学院大学社会学部紀要》108号、関西学院大学社会学部研究	2009.10
山路勝彦	〈絵葉書の民族誌、あるいは植民地の表情——皇民化時代、先覚者の描いた台湾ツォウ族の自画像〉	《台湾原住民研究》第13号、台湾原住民研究会、風響社	2009.11

山路勝彦	〈南庄事件と〈先住民〉問題：植民地台湾と土地権の帰趨〉	《関西学院大学社会学部紀要》109号、関西学院大学社会学部研究会	2010.3
山下昭洋	〈日本統治下台湾の〈戸口調査〉と〈内地人〉人口〉	《久留米大学大学院比較文化研究論集》22号、久留米大学大学院比較文化研究科	2008.7
やまだあつし	〈台湾総督府の産業政策と在地有力者：児玉・後藤期（1898～1906年）を中心に〉	堀和生編著《東アジア資本主義史論》Ⅱ、ミネルヴァ書房	2008.4
やまだあつし	〈学界展望 日本台湾学会の近況〉	《アジア経済》49巻12号、日本貿易振興機構アジア経済研究所	2008.12
やまだあつし	〈台湾：展覧会の始まりと台湾博覧会〉	柴田哲雄・やまだあつし編《中国と博覧会：中国2010年上海万国博覧会に至る道》、成文堂	2011.0.4
山田美香	〈日本植民地時期台湾における刑務所看守・教誨師〉	《人間文化研究》第9号、名古屋市立大学大学院人間文化研究科	2008.6
山田美香	〈日本植民地下台湾・朝鮮における少年保護〉	《名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究》13号、名古屋市立大学大学院人間文化研究科	2010.6
山中永之佑	〈植民地帝国日本における内地・朝鮮・台湾統治法の比較研究：1920年代の地方制度を焦点とする国民統合の視点から〉	渡辺洋三先生追悼記念論集《日本社会と法律学：歴史・現状・展望》、日本評論社	2009.3
山本和行	〈台湾領有初期における教育勅語の導入過程〉	《日本の教育史学》51集、教育史学会	2008.10
山本和行	〈台湾総督府学務部の人的構成について：国家教育社との関係に着目して〉	《京都大学大学院教育学研究科紀要》54号	2008.3
山本芳美・原英子・清水純	〈馬淵東一アーカイブの台湾写真を整理して〉	《台湾原住民族研究》14号、台湾原住民族研究会、風響社	2010.11
游 鑑明〔坪田=中西美貴 訳〕	〈日本植民体制と台湾女性医療従事者〉	野村鮎子・成田静香編《台湾女性研究の挑戦》、人文書院	2010.4
楊孟哲	〈日本時代台湾美術教育の研究：日本人美術教育の始まり〉	《地域研究》5号、沖縄大学地域研究所	2009.3
楊孟哲	〈日本時代台湾美術教育の研究 後藤新平の実業政策：手工教育への影響〉	《地域研究》7号、沖縄大学地域研究所	2010.3
葉倩瑋	〈植民地統治下台湾におけるジェンダーと空間：植民地権力と私的空間〉	《お茶の水地理》50号、お茶の水地理学会	2010.3
横井香織	〈井上雅二と南洋協会の南進要員育成事業〉	《社会システム研究》16号、立命館大学社会システム研究所	2008.3
横井香織	〈日本統治期の台湾におけるアジア調査：台湾総督府官房調査課《南支南洋調査》の分析を中心に〉	《東アジア近代史》11号、東アジア近代史学会編	2008.3
横井香織	〈近代日本の〈外地〉における高等商業教育：台北・京城・大連を事例として〉	金丸裕一編《近代中国と企業・文化・国家》、ゆまに書房	2009.3
横井香織	〈台湾銀行のアジア調査と営業拡大：明治後期から大正初期を中心に〉	《現代台湾研究》37号、台湾史研究会	2010.3

横路啓子	〈《台湾日日新報》〈文芸〉欄(1926:35)の役目—プロレタリア文学をめぐって〉	《天理台湾學報》19号、天理台湾学会	2010.9
吉見義明	〈〈從軍慰安婦〉問題研究の到達点と課題〉	《歴史学研究》No.849、歴史学研究会	2009.1
羅彩雲、宮崎清、楊靜、植田憲	〈台湾における〈紅眠床〉の風格様式：1880年代から1960年代までの現存する実物の分析を通して〉	《デザイン学研究》55巻6号、日本デザイン学会	2009.3
羅濟立	〈《廣東語會話篇(1916年再版)》からみる日本統治初期の日本人による客家語彙の学習：〈語構成〉〈意味分野〉〈語意〉の分析〉	《天理臺灣學報》17号、天理台湾学会	2008.6
羅濟立	〈劉克明《広東語集成》(1917)の客家語語法学習〉	《天理台湾學報》19号、天理台湾学会	2010.9
ラワンチャイクン寿子	〈台湾の女性〈日本画家〉：陳進筆《サンティモン社の女》をめぐって：〉	《美術史》165号、美術史学会編	2008.1
ラワンチャイクン寿子	〈〈純然たる日本画〉—台湾東洋画の場合〉	《美術フォーラム21》21号、醍醐書房	2010
ラワンチャイクン寿子、鐘正善、後小路雅弘	〈台湾・朝鮮半島の近代美術〉	《美術フォーラム21》21号、醍醐書房	2010
李郁蕙	〈日本語への自負と挫折：台湾人作家の作品を通して〉	《言語文化論究》25号、九州大学大学院言語文化研究院	2010.3
李宛儒	〈日本統治期における台湾新劇の上演内容の特徴：張維賢〈星光演劇研究会〉から〈民烽劇団〉までのレパートリーを中心に〉	《演劇映像学》2010・2集、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム〈演劇・映像の国際的教育研究拠点〉	2010
李喬〔若林正丈訳〕	〈台湾における〈特殊後植民情境〉(distinctive post-coloniality)の文化現象〉	《植民地文化研究》9号、植民地文化研究会	2010
李文卿〔青木 沙弥香訳〕	〈大東亜へ邁進せよ：台湾における文学動員〉	《中国21》第31号、方書店・愛知大学現代中国学会、風媒社	2009.5
李文茹	〈植民地的〈和解〉のゆくえ：戦後から七〇年代までの日本社会における霧社事件文学をめぐる一考察〉	王敏編《東アジアの日本観：文学・信仰・神話などの文化比較を中心に》、三和書籍	2010.10
李文良〔北村嘉恵訳〕	〈日本統治初期台湾における〈理蕃政策〉〉	和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真編《岩波講座 東アジア近現代通史：世界戦争と改造 1910年代》第3巻、岩波書店	2010.11
劉海燕	〈台湾新文学初期の発展とその軌跡に関する一考察〉	《多元文化》8号、名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻	2008.3
劉海燕	〈〈彼女は何処へ?〉考〉	《天理臺灣學報》17号、天理台湾学会	2008.6
劉海燕	〈憧憬・移植・実践：台湾新文学における中国白話 文の導入に関する一考察〉	《多元文化》10号、名古屋大学国際言語文化研究科国際多元文化専攻	2010.3
劉傑	〈日本とアジアの近現代：アジア近代史の中の日本〉	工藤元男・李成市編《アジア学のすすめ》第3巻、弘文堂	2010.6

柳書琴〔青木沙弥香〕	〈官製から民製へ 自我同文主義と興亜文学 (下)〉	《植民地文化研究(第8号)—資料と分析 特集：朝鮮・台湾・〈満洲〉8》(8)、植民地文化学会	2009.7
柳書琴〔青木沙弥香訳〕	〈文化徴用と戦時の良心—地方文化論、台湾文化復興と台北帝大文政学部の教授たち〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010
劉書彦	〈京城・台北両帝国大学における理・工学部の研究体制の形成：学部構成・教員人事を中心に〉	《現代台湾研究》37号、台湾史研究会	2010.3
劉麟玉	〈台湾総督府出版公学校唱歌教科書の研究視点：編纂過程と内容の分析を中心に〉	日本植民地教育史研究会運営委員会編《植民地教育史研究会のこれから》〔年報植民地研究史研究第10号〕	2008.4
廖炳惠〔范姜惠琳訳〕	〈気候変動と植民統治—湿度、熱気、そしてモダンティ〉	王徳威・廖炳惠・松浦恆雄・安倍悟・黄英哲編《帝国主義と文学》、研文出版	2010
林靖惠	〈日本統治時代初期の台湾における西洋音楽の受容：音楽会を中心に〉	《千里山文学論集》84号、関西大学大学院文学研究科研究科生協議会	2010.9
林琪禎	〈〈国民学校令〉の植民地適用：〈国民学校令施行規則〉・〈台湾公立国民学校規則〉・朝鮮〈国民学校規程〉を見る〉	《言語社会》4号、一橋大学大学院言語社会研究科	2010.3
林玉茹〔森田明訳〕	〈軍需産業と辺地政策 (上) 台拓の東台湾移民事業の転換〉	《現代台湾研究》36号、台湾史研究会	2009.9
林玉茹〔森田明訳〕	〈軍需産業と辺地政策 (下) 台拓の東台湾移民事業の転換〉	《現代台湾研究》37号、台湾史研究会	2010.3
林白玫	〈日本植民地時代における台湾女性生活史：余暇について〉	《大阪大学日本学報》28号、大阪大学大学院文学研究科日本学研究室	2009.3
林美秀	〈日本統治時代における台湾語仮名表記の変化過程—〈オ〉〈フ〉表記の分析を通して〉	《岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要》25号、岡山大学大学院社会文化科学研究科	2008.3
林敏容	〈日本統治時代における台湾塩の対日本、朝鮮への輸出〉	《南島史学》74号、南島史学会	2009.12
林満紅	〈日本政府と台湾籍民の対東南アジア投資(1895-1945)〉	《アジア文化交流研究》3号、関西大学アジア文化交流研究センター	2008.3
林満紅	〈基調報告 国際貿易から見た台日歴史関係〉	《世界》797号、岩波書店	2009.11
林満紅	〈東アジア海域上の琉球と台湾〉	《アジア文化交流研究》5号、関西大学アジア文化交流研究センター	2010.2
藍適齊〔安部由紀子訳〕	〈台湾における〈大東亜戦争〉の記憶 1943：53年：当事者の不在〉	《軍事史学》45巻4号、軍事史学会	2010.3
若林正文	〈矢内原忠雄と植民地台湾人：植民地自治連盟運動の言説同盟とその戦後〉、	《ODYSSEUS》14号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻	2010.3
渡辺宗助	〈国定教科書と植民地教科書の比較研究の魅力と困難：教科書の政治・社会・文化〉	日本植民地教育史研究会運営委員会編《植民地教育史研究会のこれから》〔年報植民地研究史	2008.4

		研究第 10 号]	
和田正広・翁其銀	〈戦前期上海裕孚系の企業グループと長崎泰益号・台湾関係商社との漢方薬貿易〉(8)	《九州国際大学教養研究》第 15 卷 3 号 通号 43 号、九州国際大学教養学会・九州国際大学教養学会	2009.3

③資料集（著者日文発音 50 音順）			
著者	論文名	掲載誌・論文集	年・月
阿部洋編	《日本植民地教育政策史料集成 台湾篇》第 50：55 卷	龍溪書舎	2010
E・バンド〔松谷好明・松谷邦英訳〕	《トマス・パークレー 台湾に生涯をささげた宣教師》	教文館	2009.2
後藤乾一・松浦正孝共編	《大亞細亞主義》全 8 卷	大亜細亞協会（龍溪書舎復刻）	
後藤乾一・紀旭峰・羅京洙共編	《亜細亞公論》・《大東公論》全 3 卷	亜細亞公論社・大東公論社（龍溪書舎復刻）	
高嶋雅明解説	《戦前期海外僑工興信録集成（第 8 卷）》	不二出版	2010.5
中京大学社会科学研究所台湾資料研究会編	《領台初期の台湾社会：台湾総督府文書が語る原像（Ⅱ）》	中京大学社会科学研究所	2008.3
中京大学社会科学研究所台湾史研究センター・檜山幸夫・東山京子編著	《明石元二郎関係資料》	創泉堂出版	2010.3
陳千武〔丸川哲史訳〕	《台湾人元日本兵の手記小説集《生きて帰る》	明石書店	2008.7
檜山幸夫総編集、伊藤博文文書研究会監修	《伊藤博文文書：秘書類纂 台湾 1：3》第 31：33 卷	ゆまに書房	2010.6
福沢諭吉著・杉田聡編	《福沢諭吉朝鮮・中国・台湾論集：〈国権拡張〉〈脱亜〉の果て》	明石書店	2010.10
堀和生解説	《旧外地〈工場名簿〉集成》第 1 卷～第 3 卷（台湾編①～③）	不二出版	2010.11
早稲田大学図書館・早稲田大学東アジア法研究所編	〈岡松参太郎文書目録〉・	雄松堂アーカイブス	2008.9
早稲田大学図書館・早稲田大学東アジア法研究所編	〈岡松参太郎文書〉〔マイクロフィルム〕	雄松堂アーカイブス	2008.9